令和6年度(2024年度)

前期 シラバス

熊本県立農業大学校

令和6年度(2024年度)講義時間割 前期(4月~9月)

	1 £	丰生(47期生)		前	5半				
		F	月曜日			火曜日			水曜日
			コース 選択 教室	教官		コース 選択 教			
	1 限	食品加工論	全交流館	松本	農業基礎概論 CR	花き生産論 常緑・落葉果樹栽培語	C R 2 C R 7 ♠ C R 3 C R 6	体 育	
1年(46	2 限	農業基礎概論 CR6		R 2 R 7 C R 3 C R 6	外国人コミュニケーション 外国人コミュニケーション 中国語 英語	C F 視聴 C F	道 木村 3 路	生物基礎農業	
6期生)	3 限	経官	営実習		後半	営実習			経営
	4 限	経首	営実習		経	営実習			経営

2年生(46期生)

		<u> </u>										
			月曜日					火曜日				水曜日
			コース	選択	教室	教官		コース	選択	教室	教官	
					グラウ		情報処理	農野		P C	大和	
	1 限	体育	全		グラウ ンド 体育館	石島 平野	英語	進学		C R 1	甲斐	経営
	FIX				(大教室)	1 33	農業簿記	花果 酪肉		C R 5	川田	
		国際農業論			C R 5	本田剛	情報処理	花果 酪肉		РC	大和	
2 年	限	英語		C R 1	甲斐	農業簿記	農野		C R 5	川田	経営	
4		外国人コミュニケーション	,		視聴覚室	木村	辰未冲心	進学		CKS	ЛШ	
6期生)							農特ゼミ 花きゼミ	農 花		-		
生							果樹ゼミ			-		
	3 限	4	経営実習	l			野菜ゼミ	野				経営
							畜産ゼミ	酪肉				
	4 限	なみ中羽					経営実習	1			経営	

注1: は、必修科目。 注2:「コース」欄は、「農」:農特産、「花」:花き、「果」:果樹、「野」:野菜A及びB、「酪」:酪農、「肉」:肉用牛で各コースの該当科目を表記。

注3:「コース」欄の空欄は、全コースが該当科目。

						木曜日					金曜日			
	コース	選択	教室	教官		コース	選択	教室	教官		コース	選択	教室	教官
			グラ ウンド		実用数学A			C R 2	矢野	国語			C R 1	長澤
	全		体育館 CR6	石島 平野			くらしと言葉				C R 4	梅山		
					情報	P C 室 大和 マナーと文書		マナーと文書			C R 6	池田稲田		
			C D F	H D	.±+₽			D.C.=	⊥ ⊀n		農特産		C R 2	
			C R 5	西尾	情報			PC室	入和	専門基礎講座	花き 果樹		C R 7 C R 3	
Ī			C R 4	шт	安田粉类				加拉	等门基 啶碘 <u>件</u>	野菜		C R 6	
			CR4	ЛІН	実用数学B			C R 2	加膝		酪肉		C R 4	
5	実習					経営実習	7 1				経営実習			
5	実習					経営実習	3				経営実習			

				木曜日	_					金曜日			1
コース	選択	教室	教官			選択	教室	教官		コース	選択	教室	教官
				農特産経営論	Ę		C R 5			農花		C R 5	松村
実習				花き経営論花			C R 1		病害虫論	果		C R 2	平八重
				果樹経営論 男菜経営論			CR3						
				家畜衛生論	为		C R 4		飼料作物学略			C R 3	
実習				農業団体・法人論		全	J A 中央会		海外実践学				丸山森田
									新聞トピックス		-	C R 1	長澤
実習				卒業論文		全	現場教室 PC室	担任		経営実習			
実習				経営実	習	i				経営実習			

令和6年度(2024年度)前期 開講科目

学科名	コース名	科目 区分	履修 区分	授業科目名	履修 学年	単位数	ページ
共通 (全学科)	教養		外国人コミュニケーション	1	1	4
		教養		中国語	1	1	5
		教養		英語	1	1	6
		教養		体育(1年)	1	1	7
		教養		生物(対象:農業高校出身者)	1	1	8
		教養 教養		基礎農業(対象:農業高校出身者以外) 実用数学	1	1	9 10
		教養	必修	情報処理	1	1	11
		教養	火沙	国語	1	1	12
		教養		くらしと言葉	1	1	13
		教養		マナーと文書	1	1	14
		専門		食品加工論	1	1	15
		専攻	必修	農業基礎概論	1	1	16
		専攻	2019	専門基礎講座	1	1	17
		教養		体育(2年)	2	1	22
		教養		英語	2	2	23
		教養		外国人コミュニケーション	2	1	24
		教養		情報処理	2	1	25
		教養		海外実践学	2	1	26
		教養		新聞トピックス	2	1	27
		専門		国際農業論	2	1	28
		専門	必修	農業簿記	2	1	29
		専門		農業団体・法人論	2	1	30
		専攻	必修	卒業論文	2	6	31
共通 (農産園	芸、野菜)	専門	必修	病害虫論	2	1	36
農産園芸	農特産	専攻	必修	経営実習(農特産)	1	22	37
		専攻	必修	作物生産論	1	1	37
		専攻	必修	経営実習(農特産)	2	28(26)	39
		専攻		農特ゼミ	2	1	40
		専攻		農特産経営論	2	1	41
	花き	専攻	必修	経営実習(花き)	1	22	42
		専攻	必修	花き生産論	1	1	43
		専攻	必修	経営実習(花き)	2	28(26)	44
		専攻		花きゼミ	2	1	45
		専攻		花き経営論	2	1	46
	果樹	専攻	必修	経営実習(果樹)	1	22	47
		専攻	必修	常緑・落葉果樹栽培論	1	1	48
		専攻	必修	経営実習(果樹)	2	28(26)	49
		専攻		果樹ゼミ	2	1	50
]	専攻		果樹経営論	2	1	51
取	1十:富	亩ҧ	小人人位	奴	1 1	22	FO
野菜	共通	専攻	必修	経営実習	1	22 1	52 53
		<u>専攻</u> 専攻	<u>必修</u> 必修	野菜栽培各論 経営実習	2	28(26)	53 54
		<u></u> 専攻 専攻	少修	<mark>-</mark> 経昌美省 野菜ゼミ	2	28(26)	54 55
		専攻 専攻		野菜経営論	2	1	56
	1	守以		封木社 二			36
 畜産	共通	専攻	必修	経営実習	1	22	57
	(酪農、肉用牛)	専攻	必修	家畜飼養管理・栄養学	1	1	58
	(ונוניו /אוואא	専攻	必修	経営実習	2	28(26)	59
		専攻	פוע	畜産ゼミ	2	1	61
		専攻	必修	家畜衛生論	2	1	62
		専攻	2012	飼料作物学	2	1	63
				1 may 1 11 1 1 may 4		は必修単	
経営実習内で				食品加工実習	1	_	64
経営実習内で				食品加工実習	2		65
経営実習内で				農業機械応用実習 、	2	-	66
"-UV 111 C	><110						00

=# + *	科 目 名 外国人	、コミュニケーション I	教 官 名	木村 美紀·大西	聖華					
講義科目	履修学年 1年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む)	14回					
授 業 形 態	【前半】5	キスト(基礎部分)に沿っ	って、個人、^	アワーク(PW)で実施						
按 未 形 悠 	神我 【後半】5	ーマに沿って、グループ	プローク(GW)	で実施 → 発表						
	外国人と交流する際(つける。	こ必要な「コミュニケーシ	ョン能力」、「	基本的な日常英会話力	」を身に					
テーマ及び概要	「自己探求」を通して「	自己実現」へつなげる。								
使 用 教 材										
①テキスト・教材	① 短期完成!あある	言えば即こう言う英会話1	10日間100	本ノック						
②参考文献			妻鳥 千鶴子	-(著) Jリサーチ出版	<u> </u>					
	大	項目		小 項 目						
	(1) オリエンテーション		英会話を身に	こつけることの必要性						
			コミュニケーシ	/ョン力が人生に及ぼす 影	/響とは					
	(2) テキスト: Day1 :		イエスorノー(の疑問文に3秒で!						
	テーマ:「like]or [dor	't like」PW								
	(3) テキスト: Day2:		いつ?どこ?	どっち?なぜ?						
	テーマ: 好きなもの・	行きたい場所と理由 PW								
	(4) テキスト: Day3:		「何?(what)	」で始まるいろんな疑問文						
	テーマ:いろんな質問	引に答える PW								
	(5) テキスト: Day4:		「誰?(who)」	で始まるいろんな疑問文						
講義	テーマ:いろんな質問	引に答える PW								
スケジュール	(6) テキスト: Day5:		「どう?(how)	」で始まるいろんな疑問文						
	テーマ:育ててみた い	↑植物・作物と育て方 PW	V							
★講義日数に応じ	(7) テキスト: Day6:		canとcouldを	使った疑問文						
(((()~(11)の進	テーマ:育ててみたし	↑植物・作物と育て方								
行調整を行います。	(5) = 1	PW∙発表		- 4777						
	(8) テキスト: Day7:	0	shall & should	の疑問文						
		:プレゼントしたいもの PW								
	(9)テキスト: Day8:		willとwouldの	疑問文						
	テーマ: やってみたし	Nこと PW・発表								
	(10) テキスト: Day9:		may∠might <i>Œ</i>)疑問文						
	テーマ:休暇の予定	PW								
	(11) テキスト: Day10:		確認や同意を	そ求める疑問文						
	テーマ∶休暇の予定 	·やりたいこと PW・発表								
	(12) テキスト総括 ・ 定	胡試験								
	(13) 試験用紙返却 ・ 講義総括									
成 績 評 価	注意:受講態度、レポ	試験成績、授業態度 ートやプリントの未提出、 び指示が無い場合のス			- -					

=# ** ** F.	科目名	中国	語 I	教 官 名	路 菁						
講義科目	履修学年	1年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち2回は定期試験を含む)	14回					
授業形態	講義形式										
科目目標 (指導·到 達目標)	日常的に使われている挨拶表現ができる 農業の国際化対応の一環として日本文化の源流をなす中国について、中国語の学										
テーマ及び概要											
使 用 教 材											
①テキスト・教材	① 中国語10課(白水社)										
②参考文献											
		大 項 目			小 項 目						
	1 中国語の	基礎		(1)中国語の発音の仕方 (2)中国漢字と日本漢字							
講義 スケジュール	 2 日常の挨	拶		(1)日常的に使われている挨拶表現							
,,,,,				(2)自己紹介·家族紹介							
評価:講義出席状況、試験成績、授業態度 成績評価 注意:受講態度、レポートやプリントの未提出、講義への遅刻・早退・欠席、講義中 居眠り、私語は減点とする。 特に、スマートフォンの使用については、注意に従わない場合、欠席扱いとす											

	科目名	英語	I	教 官 名	甲斐 知	昭						
講義科目	履修学年	1年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む)	14回						
授 業 形 態	講義											
科目目標 (指導·到達目標)	4年制大学	4年制大学への編入試験を想定して、進学英語をマスターする。										
テーマ及び概要	馴染み深い内容を通して英文音読力を徹底的に強化することで、 読解力・リスニングカを同時に向上させる。											
使 用 教 材												
①テキスト・教材												
②参考文献 ※テキストの前半部分を使用します。												
		大 項 目		小 項 目								
	1. 英文音	読力の強化		(1)読解力の向上								
		(2)音読速度を向上させることでの聴解力の向上										
				(3)英語表現	見を体得させることによ	るコミュニケー						
	※取り上げる課題英文のシャドウイングもしくは											
				バーラッピングに毎回挑戦し、それを評価の対象と								
				します								
講義				U A Y								
スケジュール												
	2. 語彙力	強化		(1)TOEIC	形式の問題への取り組	しみ						
	文法再	構築		(2)実用英語として使用頻度の高い英文法								
	評価:定期試験(60%)、講義出席状況(10%)、音読テスト、提出物、その他(30%)											
 成績評価	 注意:受講!	長度、レポートヤ	ゥプリント <i>σ</i>)未提出、講	義への遅刻・早退・欠 席	『、講義中の						
	居眠り	ル、私語及び携	帯電話(ス	マートフォン)	の使用は減点とする。							
	特に、	人マホの使用	については	は、注意に従れ	わない場合、欠席扱い。	とりる。						

	T									
講義科目	科目名	体育	(1年)	教 官 名	平野龍(NPO法人ひとづくりJA 石島一真((一財)熊本県スポ					
一种 我 行 口	履修学年	1年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む)	14回				
授業形態	屋内・屋外で	の実技(一部	『学科も含む)							
科目目標 (指導·到達目標)					リ組み、コミュニケーション に活かせる知識と技術を習っ					
	て豊かなスポ	健康・安全や運動についての理解と運動の合理化、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のため実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。								
使 用 教 材 ①テキスト・教材 ②参考文献										
		大 項 目			小 項 目					
	 技術の習 体力の強 礼儀作法 	得 化		態度 ・集団 考え		こついて				
	4 協調性を	養う		(2)バレー ・サー	ボール ブ、パス、レシーブの方法					
	5 各種スポー6 農業に活		去 置の知識と技術	(3)バスケットボール ・ ドリブルとパスの練習 術・・ 攻撃技術とボールコントロール等の練習						
講義 スケジュール	の習得			(4)ソフトオ ・ キャ	ドール ッチボール、トスバッティンク	グの方法				
				方法	ルコントロール及びシュー	トの練習の				
				デザック 学び ・ 各種	目におけるルールやマナー フェアなプレイを大切にす。 目における練習の計画・実 の企画運営を主体的に行	る				
成績評価	注意:	授業への遅 居眠り、私記	刻・早退・欠席 吾及び携帯電記	、学科での 舌(スマート)	など総合的に評価する レポートやプリントの未提と フォン)の使用は減点とする ない場合、欠席扱いとする。	。特に、ス				

=	科目名	生	物	教 官 名	西尾 嘉郎	ß					
講義科目	履修学年	1年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む)	14回					
授 業 形 態	講義およびク	ブループワー <i>?</i>	ל								
科目目標 (指導·到達目標)	高校で学んだ生物の基礎をおさらいする。										
テーマ及び概要	1 生物の多様性を知り、、生物に共通する概念や原理・法則を理解する。 2 遺伝子・健康・環境など、農業とのかかわりを考えるために必要な科学的素養を高める。										
使 用 教 材 ①テキスト・教材 ②参考文献	①「改訂新	①「改訂新編 生物基礎」東京書籍									
		大項目			小 項 目						
	1 生物の特	徴		(1)生物の共通性としての細胞 (2)エネルギーと代謝、酵素のはたらき (3)生体内におけるエネルギー変換 (4)葉緑体とミトコンドリア							
講義 スケジュール	2 遺伝子と	そのはたらき		(1)遺伝情報とDNAとゲノム(2)遺伝情報の分配(3)遺伝情報とタンパク質合成							
	3 生物の体	内環境の維持	寺	(1)体内環境の特徴 (2)体内環境を維持する仕組み (3)免疫							
	4 生物の多	様性と生態系		(1)植生の多様性と遷移 (2)生態系と食物連鎖							
評価:定期考査、課題、学習態度、出席状況を勘案して評価する。 成績評価 注意:レポートやプリントの未提出、講義への遅刻・早退・欠席、講義中の居眠 私語及び携帯電話(スマートフォン)の使用は減点する。特に、スマホの何ついては、注意に従わない場合、欠席扱いとする。											

	1									
講義科目	科目名	基礎農業	業	教 官 名	川田 博史					
研教行	履修学年	1年 単	位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む)	14回				
授 業 形態	講義									
科目目標 (指導·到達目標)	農業が担う重要な役割を理解するととともに、農業に何が求められているかを考える。 また、農業を始めるにあたっての基礎知識を学ぶことで、本校で学ぶ専門講義や経営実 習を円滑に受講できるようにする。									
テーマ及び概要	2 作物栽培や	2011								
使 用 教 材										
①テキスト・教材	①新版農業の基礎 農文協発行									
②参考文献	① 新聞等の情報を活用、講義プリント									
	大	項目			小 項 目					
	1 私たちの暮	ようしと農業		•						
	2 栽培•飼育	の基礎		(1)動植物の生き方	で表 ・ 飼育					
				(2)栽培・飼育のしく	くみと技術					
				(3)栽培環境と環境	保全型農業の基礎					
	 3 栽培の実際	数 示		(1)種子を利用する植物の栽培と利用(イネ、コーン、大豆)						
				(2)果実を利用する植物の栽培と利用(果菜類)						
				(3)葉や茎、根を利用する植物の栽培と利用(葉菜類、根菜 類)						
講義スケジュール				(4)草花・ハーブの栽培と利用						
				(5)栽培の基礎実験	A					
	4 飼育の基础	楚と実際		(1)飼育の基礎						
				(2)飼育の基礎実験	食					
	5 農業・農村	と私たちの暮	らし	(1)地域の自然環境	竟と地域農業					
				(2)我が国と世界の	食料・農業・農村					
				(3)広がる農業・農	村の役割					
	6 農業用語の	り基礎知識								
成績評価	点) 【注意事項】 レポート等の <i>5</i>	未提出、講義へ	への遅	刻∙早退∙欠席、私	小論文)により評価する。 語及び携帯電話(スマー 注意に従わない場合、ク	トフォン) の				

-# + + 1	科目名	実用数	 数学	教 官 名	矢野 信司息 加藤 義和			
講義科目	履修学年	1年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む)	14回		
授業形態	講義及び演習	習 かれて、実施で	する。					
科目目標 (指導·到達目標)	計算力の向上と物事を処理する能力の向上を目指し、数学に対する自信を持たせる。							
テーマ及び概要	農業及び生活	舌を営むうえて	・必要な数学	学的知識を習	'得させると共に考え方を	鍛える。		
使 用 教 材								
①テキスト・教材	① 教材によ	る学習						
②参考文献		大 項 目			 小 項 目			
	 1 復習編	<u> </u>		<u> </u>				
	(2)濃度算							
	(3)面積の計算							
				(4)速さ・距	離∙時間			
				(5)ものの値段と個数				
講義 スケジュール				(6)定価・原価・利益(損益算)、分割払い				
\(\frac{1}{2}\)				(7)仕事算・	水槽算			
	2 応用編			各種データの	の取り方と活用方法			
	 評価:出席状	況、試験成績	、授業態度	<u> </u>				
成績評価	評価:出席状況、試験成績、授業態度 注意:受講態度、レポートやプリントの未提出、講義への遅刻・早退・欠席、講義中の 居眠り、私語及び携帯電話(スマートフォン)の使用は減点とする。 特に、スマホの使用については、注意に従わない場合、欠席扱いとする。							

			科目名	情報	 処理 I	教 官 名	大和浩成((有)マ! 恒松海斗((有)マ!				
講	義	科 目	履修学年	1年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は試験を含む)	14回			
授	業	形態	パソコンを使	パソコンを使用し、講義と演習を併用する。							
(指導	科目 拿• 到	目標	パソコンの基	パソコンの基本操作及びWordを利用したビジネス文書やレポートの作成							
テー	-マ及	なび概要	Wordを使って	パソコン基本操作の習得 Nordを使ってビジネス文書やレポート作成できるようにする。 最終的にはWord検定3級または2級レベルの問題を実施する。							
		教 材				_					
					d基礎 (マリオ・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
②参	考又	て献	(1) オリジナ		d応用(マリオ	ネット) T	小百日				
			1. パソコンの	大項目 7世本場作		 - パソコン/安	小項目	計 . 奴フ			
			1. /\\	/J基本採TF			『環境設定の説明と起』 『の其本場作し』 古徳』				
					・キーボードの基本操作と入力練習用ソフトを 使って文字入力						
			2. ワープロ	の操作方法		・Wordの基本操作					
						・入力と変換の解説					
						・文書の編集					
	講	義				・罫線機能を使って表の作成					
^'	アン	ュール	・グラフィックスの利用								
			3. 様々な形	3. 様々な形式の文書の完成を試みる							
			4. SmartArtやグラフなどの図解を利用した								
			表現力のあ	る文章の作成	:						
			5. 他のアプ	5. 他のアプリケーションデータの挿入							
成	績	評 価	注意:レポー 及び携 [・]	トやプリントの: 帯電話(スマー	トフォン)の使用	·の遅刻・早況 は減点とす	退・欠席、講義中の居明 る。 場合、欠席扱いとする。				

-# ¥ N D	科目名	国語	ξΙ	教 官 名	長澤 久美子	2				
講義科目	履修学年	1年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む)	14回				
授 業 形 態	講義及び演習									
科目目標 (指導·到達目標)	語彙、表記、表	吾彙、表記、表現に留意し、論点を明確にした文章が書けること								
テーマ及び概要	テーマ「論理的な文章の作成能力の育成」 概要 まず、文章を書く前段階の基礎的な国語力を養成する。 次に論理的な文章の「型」を学習し、その後、より高度な論理的な文章が 書けるようになることを目標とする。									
使 用 教 材										
①テキスト・教材 ① 配布プリント										
②参考文献										
	大項目				小 項 目					
	1 基礎レッス	スン編		(1)漢字•語	彙					
					(2)表記					
	2 表現レッスン編			(3)表現						
				(4)まとめ						
 講義スケジュール				(1)ウォームアップ						
				(2)文章の書き方						
				(3)作文実践						
成 績 評 価	及び携帯	やプリントのき 電話(スマー	未提出、講義 トフォン)の使	への遅刻・ ⁵ 用は減点と	₽退∙欠席、講義中の居闘					

 講義科目	科目名	くらしと	上言葉 	教 官 名	梅山 みどり					
一种 我 14 口	履修学年	1年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち各1回は定期試験を含む)	14回				
授業形態	講義形式	講義形式								
科目目標 (指導·到達目標)		目的に応じ			楚を育成するものである。: 自らの考えを表現する能					
テーマ及び概要		暮らしの中の日本語の常識を身に付ける 文章を書く上での基礎知識や方法を学ぶ。								
使 用 教 材										
①テキスト・教材	①スラスラわ	かる「敬語B	OOK」美別	月あきこ(成美	(堂出版)					
②参考文献										
		大 項 目			小 項 目					
	1 あいさつ			①あいさつの基本						
				②自己紹介						
	2 手紙の書き方			①お礼の手紙						
				②案内状の	返信					
	3 敬語			①敬語の基礎知識						
# 善				②間違いやすい敬語						
講義 スケジュール				③ウチとソト						
				④電話の対応						
	4 くらしの中	の言葉		①若者言葉						
				②間違いやすい言葉						
				③いろいろな	章葉					
	評価:定期者	查、課題、 [:]	学習態度、	出席状況を勘	 加案して評価する。					
成績評価	評価:定期考査、課題、学習態度、出席状況を勘案して評価する。 注意:レポートやプリントの未提出、講義への遅刻・早退・欠席、講義中の居眠り、 私語及び携帯電話(スマートフォン)の使用は減点する。特に、スマホの使用に ついては、注意に従わない場合、欠席扱いとする。									

T) (和0年及熊本	宗丛辰未入	、子仪 神我	件日恢安	(ンプハス)				
講義科目	科目名	マナー	-と文書	教 官 名	①池田充子(マナー編) ②稲田博子(文書編)				
нт	履修学年	1年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む) 14回				
授 業 形 態	講義形式及び実践演習								
科目目標 (指導·到達目標)	必要な書写、及	① 社会人としてのビジネスマナーとコミュニケーションを身につけると共に、就職活動に必要な書写、及び履歴書作成、面接対応が出来る事を目標とする。 ②「文字を正しく整えて、読みやすく、速く書くこと」を学び「書く」という美しさを理解し応用的に表現できる							
テーマ及び概要	対、ビジネス文)社会人として必要なスキル(ビジネスマナー、コミュニケーション、言葉遣い、電話応 対、ビジネス文書の取り扱いとメールの書き方、面接における所作、挨拶の仕方を学ぶ) ② 硬筆の基礎(楷書・行書・横書きの文章)と実技							
使用教材	 マナー編: ① ブ	°∪ゝ.↓ ≠ ==1 /-							
①テキスト・教材②参考文献	マテー編: ① ノ 文書編: ①プリ:								
		 大項目							
	【マナー編】オ	リエンテーショ	ン	<u></u> 職場でのビ					
	【マナー編】								
	正しい言葉遣い 職場でのコミュ ビジネス文書及 電話の応対(基	- ニケーション なびメールの書き - 礎)		言葉遣いと敬語、クッション言葉、 報告・連絡・相談 文書の種類とメールのルール 電話の受け方・かけ方 基礎 電話の受け方・かけ方 演習					
講義 スケジュール	文字の歴史、	う事について考 漢字の歴史	える	授業の取り組みの説明 書体の変遷について (実技)自分の名前を書く					
(順番は前後する ことがあります)		デールペン及び釒	沿筆)	筆記具について考え、楷書と行書の特長を知 り使い分ける					
	【文書編(第3[平仮名、カタカナ	^{□)】} -、数字、アルフ [▽]	ァベット	封筒の宛名の書き方・フェルトペンを使って 研修記録簿の書き方①					
	【文書編(第4[漢字仮名交じ 応用・ロゴ作)	り文を書く		研修記録簿 フェルトペン	の書き方② 全体構成 で使って				
	【マナー編】 自己分析と履歴 就職対策演習① 就職対策演習② 試験)		面接実践(き方⇒(夏休み課題)履歴書作成 書き方と面接の身だしなみ) グループと個人)				
	【マナー編】 定期試験(60%)、講義出席状況・講義内での小テスト・レポート・講義への取り組み状況(平常点40%)により、総合的に評価する。(100点満点)								
成績評価	【文書編】 自分の名前(楷書 封筒の宛名の書 研修記録簿の全	き方(フェルトペン	vを使って体裁よ ^く	(書ける)◎C					
					話(スマートフォン)の使用は減点 導に従わない場合、欠席扱いとす				

14

	科目名	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 - 論	教 官 名 松本 鮎美							
 講 義 科 目	14 11 11	又 11771 二	- pm	X 1 1	1477 3417						
117 92 11 12	履修学年	1学年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち各1回は定期試験含む)	13回					
授業形態	講義形式、	、演習		実務経験内容	普及指導員(農産物利	活用)					
科目目標 (指導·到達目標)	(2)食品加工			るとともに、関連する知識及び技術を身につける。 農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創							
テーマ及び概要	知識と技術 〇食品産業	○製造原理や原材料特性など食品加工、食品の安全性・品質表示など食品加工に関する 知識と技術について学ぶ。 ○食品産業の現状と動向、生産工程管理、食品の安全性や環境への配慮、法令順守など 食を取り巻く現状と課題について理解を深める。									
使 用 教 材 ①テキスト・教材 ②参考文献	「食品製造	「食品製造」、担当教官作成テキスト									
		大 項 目		小 項 目							
	1 食品製造	きの意義と動向		(1)食品製造の意義 (2)食品産業の現状と動向 (1)取以組みの非常に関照							
	2 6次産業化、農商工連携の動き				の背景と課題 取り組み事例						
講義 スケジュール	3 食品の変質防止と品質保持			(1)食品の変質とその原因(2)食品の貯蔵法(3)食品衛生、食中毒、安全確保等							
X7 21—10	4 原料特性と加工法				(1)穀類、野菜、果実、畜産物の特性と加工技術(2)副材料(油脂、調味料)等の特性と加工技術						
	5 加工食品の製造・販売			(1)食品営業許可 (2)加工施設の衛生基準							
	6 加工食品	品の規格・表示と	安全性	(1)食品表示法と表示基準 (2)表示マーク							
成績評価	・定期考査(70%)+小テストの成績+出席状況や受講態度(10%)等により総合的に評する。 ・授業数の2/3以上の出席のないものは、成績評価の対象にしない。 ・注意:レポートやプリントの未提出、講義への遅刻・早退・欠席、講義中の居眠り、私語は点とする。特に、スマートフォン、イヤホンの使用については、注意に従わない場合、欠席がいとする。										

	<u> </u>	農業基礎概	 :論(1年生)			(農産園芸)戸上、青木、清水			
┃ ┃ 講 義 科 目	科目名	(4~6		教 官	名	(野菜)永井、椙山 (畜産)中山			
	履修学年	1年	単位数	1単 ⁻	位	講義回数予定 (うち1回は講義説明会) 14回			
授 業 形 態	講義			実務経驗	內容	普及指導員(茶、果樹、野菜、畜産)			
科目目標 (指導·到達目標)	農業各分野 人材を育成		い知識を習	『得することで、多角的な視野をもって活躍する 『ないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ					
 テーマ及び概要	講義を通じ各学科・コースの取り組み内容の理解醸成。								
使 用 教 材 ①テキスト・教材 ②参考文献	各学科・コースの担当教官が作成するテキスト等								
		大 項 目				小 項 目			
	1 ガイダン		(1)講義の目的 (2)今後のスケジュール						
	2 花きに関する概論			(1)花き栽培基礎 周年生産と需要が多い花(2)花き栽培基礎 花の育種とプラントハンター					
	3 農特産に関する概論					F物生産の役割			
				(2)作物の特徴と種類					
講義 スケジュール	4 果樹に関する概論			(1)果樹の種類と特徴 (2)果樹の栽培特性と良果多収の基本					
	5 野菜に関する概論			(1)野菜の種類と特徴 (2)野菜の生産と栽培特性					
	6 畜産に関	する概論		(1)家畜と人間					
						としての畜産物			
				(3)牛、豚、鶏の特徴と品種					
	□価 · 久学 €	1.コーマ毎に	小テストやリ	<u></u>	山 唐				
	(100点満点 注意:講義ロ)。最終評価に 中の居眠り、私	は、各学科・3 √語及び携帯	コースの 詩電話(ス	評価	を集計して行う。 -トフォン)の使用は減点とする。特			
成績評価	に、携帯電詞 とする。	古(スマートフォ	ナン)の使用	については、注意に従わない場合は欠席扱い					
	資格取得					学生が多数になると想定されるので、講義回毎			

 講義科目	科目名	作物専門	基礎講座	教 官 名	戸上 皓一朗 			
DH 42 17 LI	履修学年	1年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む) 14回			
授 業 形 態	講義			実務経験内容 普及指導員(茶)				
科目目標 (指導·到達目標)					について学習し、水稲を中心とした な術を身につける。			
テーマ及び概要	2 作物の生産	作物栽培における基礎知識及び技術を習得する。 作物の生産から流通までの基礎知識を習得する。 農業が持つ多面的な役割について正しく理解する。						
使 用 教 材								
①テキスト・教材	①作物栽培の)基礎(農山)	魚村文化協会)				
②参考文献	②その他技術	資料						
		大 項 目			小 項 目			
	1 作物			(1)植物と動	物の違い			
				(2)植物と作	作物の違い			
	2 作物の成:	長と体のしくる	4	(1)作物の-	ー生と生活史			
				(2)栄養成	長と生殖成長の進み方			
				(3)作物の空	生理的な営み			
				(4)生育の。	よしあしの判断			
				(5)作物の	利用部位と栽培のポイント			
	3 作物の収量と栽培環境			(1)作物の収量とは				
				(2)作物群としての光合成と収量				
講義 スケジュール				(3)作物生産と資源の有効利用				
	4 作物の品種と収量・品質			(1)品種とその特性				
				(2)これからの育種の目標と可能性				
				(3) 育種と遺伝資源について				
	5 地域環境	·土地利用と	作物生産	(1)地域の野	環境と作物生産			
				(2)耕地の1	合理的利用			
	6 作物生産	と情報の利用]	(1)作物生產	産と情報利用の広がり			
				(2)生育診	断と情報利用			
	ハハー L.I.M. A 4-L.I.ニエア - L.フィ・							
	評価:定期考: 点満点)。	査(70%)、}	出席状況や講	義態度(30g	%)により総合的に評価する(100			
成 績 評 価	注意:レポート				退、講義中の居眠り、私語及び携			
	帯電話(スマートフォン)の使用は減点と							
	については、注意に従わない場合は欠席扱いとする。				0			

	科目名	専門基礎詞	講座(果樹)	教 官 名	野中実					
講義科目		1年	単位数	1単位	講義回数予定	14回				
授業形態	講義・実習			実務経験内容	普及指導員(果樹)					
科目目標 (指導·到達目標)		主要な常緑果樹及び落葉果樹について、生産現場で行われてる生産技術や実践事 を理解させる。								
テーマ及び概要	常緑果樹及で	常緑果樹及び落葉果樹の生産に必要な生産技術や実践事例を習得させる。								
使用教材										
①テキスト・教材	・フルーツ&フルーツ(熊本県果実連) ・農学基礎セミナー 新版果樹栽培の基礎(農文協) 教材 ・ひと目でわかる果樹の病害虫 第一巻(改定第二版) ・ひと目でわかる果樹の病害虫 第二巻(改定第二版) ・ひと目でわかる果樹の病害虫 第三巻(改定第二版)									
②参考文献										
講義 スケジュール		大項目 ・落葉果樹の の実践事例(*		(5)経営の特 (6)施設栽培 ※(2)~(6)	は培管理 生理障害 売と貯蔵・加工					
成 績 評 価	受講態度(15 なお、レポー および携帯電	%)などにより トやプリントの ፤話(スマートフ	総合的に評価 未提出、講義	する(100点清 への遅刻・早 或点とする。特	ント等の提出(10%)+出 あ点)。 退・欠席、講義中の居は 持に、スマートフォンの係	眠り、私語				

	科 目 名 専門基礎講座(石	をき) 教 官 名	7 名 青木 孝枝							
講義科目	履修学年 1年 単位	ī数 1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む) 14回							
授業形態	携義									
科目目標 (指導·到達目標)										
テーマ及び概要	花き生産における技術の変遷やトピックスについて理解を深める。									
使 用 教 材 ①テキスト・教材 ②参考文献	草花栽培の基礎、花卉園芸学の基礎、切り花の日持ち技術									
	大 項 目		小 項 目							
	1 切り花類	(1)キク								
		(2)カーネ-	(2)カーネーション							
		(3)宿根力								
		(4)トルコキ	•							
		(5)キンギ:								
			(6)ユリ類							
			(7) クルクマ							
講義		(1)) 10)								
スケジュール	2 鉢物•花壇用苗物類	(1)シクラン	(1)シクラメン							
		(2)ラナン=	(2)ラナンキュラス							
		(3)パンジー	(3)パンジー(ビオラ)							
	O -> #=	(4) > 1 * 5								
	3 ラン類		(1)シンビジウム、カトレア (2)ファレノプシス							
		(2) 7707	792							
	4 花木類	(1)ハイドラ	(1)ハイドランジア							
成績評価	講義出席状況、レポート提出状況、筆記試験 定期考査(60%)+レポート・プリント等の提出(20%)+出席状況・受講態度(2 0%)などにより総合的に評価する。(100点満点)									
成績評価		ン)の使用は減点	別・早退・欠席、講義中の居眠り、私語 ≒とする。特に、スマホの使用について							

	科目名	専門基礎講	上版(配益)	教 官 名	永井 泰弘				
 講義科目	件日石	守门圣促神	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	叙 占 石					
	履修学年	1年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む)	14回			
授 業 形 態	講義、セルフ	フワーク		実務経験内容 普及指導員(野菜)					
科目目標 (指導·到達目標)		る基礎的な生! 力を養成する。		が管理方法を	を理解することで、専門的な	な技術習			
テーマ及び概要		野菜の生産と消費の現状を理解し、栽培技術の基本を学ぶことで、野菜栽培について)興味と理解を深める。							
使 用 教 材 ①テキスト・教材 ②参考文献	野菜栽培の	野菜栽培の基礎(農山漁村文化協会)							
		大 項 目			小 項 目				
				(1)野菜の種類 (2)野菜の分類 (1)野菜の成分 (2)野菜の機能性 (1)野菜の生産動向 (2)野菜の消費動向 (1)種子の特性 (2)種子の処理と利用 (1)根の発達と働き (2)根の肥大 (1)茎葉の発達と働き (2)結球 (1)花芽分化の条件 (2)開花、受粉、受精と果実の発育肥大 (1)休眠のしくみ (2)休眠打破 (1)野菜の品質とは (2)品質を左右する要因 (1)作型の分類 (2)果菜類の栽培様式 (3)地下部・地上部・生物的環境 (4)土壌管理と施肥 (5)被覆資材の利用					
				(7)養液栽(8)有害生(9)果菜類(10)葉茎類	物の管理 の育苗				
成 績 評 価	い)、講義へ 注意事項: 居眠り、私語	評価割合:講義出席状況(3分の2以上の出席のないものは成績評価の対象にしない)、講義への取り組み状況(10%)、課題提出(10%)、定期試験(80%)注意事項:課題(レポートやプリント)の未提出、講義への遅刻・早退・欠席、講義中の居眠り、私語及び携帯電話(スマートフォン)の使用は減点とする。特に、スマホの使用については、注意に従わない場合、欠席扱いとする。							

	ī			ı					
 講義科目	科目名	専門基礎講	座(畜産)	教 官 名	中山統雄				
m	履修学年	1年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む)	14回			
授 業 形 態		講義形式		実務経験内容 普及指導員(畜産)					
科目目標 (指導·到達目標)		動物を利用した産業の意味と役割を理解するとともに、現在の日本における畜産の現 状と今後について理解する。							
テーマ及び概要		動物の家畜化の歴史、現在飼養されている主な家畜の品種と特性、乳・肉の生産に 関与する要因など畜産の基礎知識を学習する。							
使 用 教 材									
①テキスト・教材	知識ゼロから	の畜産入門							
②参考文献	熊本県畜産	振興方針、畜産	E統計等						
		大 項 目			小 項 目				
	1 食べ物と	しての畜産		(1)家畜・畜産とは					
				(2)家畜と人間の生活					
	の中本の主	亜口紙のお白	1 . 4十 公44	/4/河田4	6 生1.4到4 本				
	2 家畜の主要品種の改良と特徴				の一生と牛乳生産				
					の一生と牛肉生産				
				(3)豚の一生と豚肉生産 (4)鶏の特徴と鶏肉・鶏卵生産					
			(5)牧草の種類と栽培						
講義	3 畜産農家	 3 畜産農家の特徴と経営			(1)日本の畜産の特徴				
スケジュール 				(2)酪農•畜産経営					
	 4 畜産物の	流通と消費		(1)消費者動向と流通体系					
		加		(1) 消貨有期内と流進体系(2) 牛のトレーサビリティ制度					
				(2) 0) 0	プロググ 中間が				
	5 世界の畜	産と国際貿易		(1)畜産物と飼料の輸入					
				(2)貿易協	定と輸出				
	 6 畜産の新	しい動きと可能	比性	(1)畜産の	新しい動き				
					養管理と動物福祉				
	 	-杰(2∩0∠\」□	1 年代にか	: :: 誰	0%)などにより総合的に	- 評価士ス			
	(100点満点	į)							
成績評価					眠り、私語及び携帯電記 こついては、注意に従わる				
	欠席扱いとす		J。1寸I〜、 人	マハの使用い	- ノい・(は、/エ忌!〜1にイノケ	みり *勿口、			

-	1							
講義科目	科目名	体育	(2年)	教 官 名	▼野龍(NPO法人ひとづくりJAI 石島一真((一財)熊本県スポ			
神 我 符 口	履修学年	2年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む)	10回		
授業形態	屋内・屋外で	の実技(一部	『学科も含む)					
科目目標 (指導·到達目標)					リ組み、コミュニケーション能 に活かせる知識と技術を習行			
	て豊かなスポ	ペーツライフを	上継続する資質	や能力を育	、計画的な実践を通して、 育てるとともに健康の保持増 1ある生活を営む態度を育っ	増進のため実		
使 用 教 材 ①テキスト・教材 ②参考文献								
		大項目			小 項 目			
	 技術の習 体力の強 礼儀作法 	得 化		(1)集団訓練 ・ 団体行動の中で、自分の立場や態度を培う ・ 集団におけるルールやマナーについて考え、規範意識を向上し、社会に主体的に参加する態度を養う				
	4 協調性を養う			(2)バレーボール ・ サーブ、パス、レシーブの方法				
	5 各種スポーツの練習法 6 農業に活きる応急処置の知識と技術			(3)バスケットボール ・ ドリブルとパスの練習 ・ 攻撃技術とボールコントロール等の練習				
講義 スケジュール	の習得			(4)ソフトオ ・ キャ	ドール ッチボール、トスバッティング	グの方法		
				方法	ルコントロール及びシュート	-の練習の		
				学び ・ 各種	目におけるルールやマナー フェアなプレイを大切にする 目における練習の計画・実 の企画運営を主体的に行	る		
成 績 評 価		授業への遅居眠り、私詞	刻・早退・欠席 吾及び携帯電記	、学科での 話(スマート:	など総合的に評価する レポートやプリントの未提出 フォン)の使用は減点とする ない場合、欠席扱いとする。	。特に、ス		

	科目名	英語	Ш	教 官 名	名 甲斐 知昭		
講義科目	履修学年	2年	単位数	2単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む)	23回	
授 業 形 態	講義 (原則月曜2	限及び火曜1四	艮(週2回実	ミ施)			
科目目標 (指導·到達目標)	4年制大学/	への編入試験の)直前対策	として、進学	英語をマスターする。		
テーマ及び概要		でその知識を得を獲得し、同時	-		を英語を通して学ぶこ を高める。	とで	
使 用 教 材							
①テキスト・教材	① Our Wor	ld Today Adam	Murray、	Anderson Pas	ssos 著 (南雲堂)		
②参考文献							
		大項目			小 項 目		
	1. 英文読	解力の向上		(1)環境問題	題、人口爆発、少子化問	問題etc.	
				種々の社	:会問題を英語を通して	学ぶ	
				(2)関心を持	持った社会問題を各自排	屈り下げ	
				話題力0	D向上につなげる		
	2. 英語表現	見力の向上		(1)身近であ	らったり関心あるテーマ	を学ぶ	
				ことで、英語	語におけるその表現方法	に関心を	
				寄せる			
講義 スケジュール							
	2. 語彙力	強化		(1)各種検되	定試験形式問題への取	り組み	
	文法再	構築		(2)実用英語	吾として使用頻度の高い)英文法	
				の獲得			
	評価·定期報	大験(60%) 講連		(10%) 音 誌-	テスト 提出物 その他	(30%)	
灰積 評 価 	り、私語及び	携帯電話(スマ	マートフォン)の使用は減			
成 績 評 価	注意:受講態 り、私語及ひ	態度、レポートや ・携帯電話(スマ	ウプリントの マートフォン	(10%)、音読· 未提出、講 <i>う</i> の使用は減		、講義中の居	

	科目名	外国人コミ	ュニケーションⅢ	教 官 名	木村 美紀					
講義科目	履修学年	2年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む)	12回				
授業形態	講義 外国人と交流	【前半】テキストに沿って、個人、ペアワーク(PW)で実施 講義 【後半】テーマに沿って、グループワーク(GW)で実施 → 発表 外国人と交流する際に必要な「コミュニケーション能力」、「基本的な日常英会話力」を身に								
(指導• <u>到達日煙)</u>	つける。	ンける。								
テーマ及び概要	英語での「自	己表現力」、「	質問力」を磨く。							
使 用 教 材 ①テキスト・教材 ②参考文献	① 短期完成	戍!すぐに使え	える英会話 妻鳥 千	-鶴子(著)	Jリサーチ出版					
		大 項	目		小 項 目					
	(1) オリエンテ	ーション		英会話を身に	こつけることの必要性					
	テキスト: [Day1:		欲求•願望「~	~したいです」					
	(2) テキスト: 🗅	ay2:		依頼「~してぐ	〈れますか」					
	テーマ:Yo	ur experience(វ	経験)①GW	今までに育て	た植物・農作物・動物につ	ついて				
	(3) テキスト: 🗅	ay3:		許可「~してき	もいいですか」					
	テーマ:Yo	ur experience(経験)②発表	今までに育て	た植物・農作物・動物につ	ついて				
	(4) テキスト: ロ	ay4:		賛成・反対「~に賛成・反対です」						
		netic recombina み換え)について		知識・教養(個人で検索→発表・情報共有)						
講義	(5) テキスト: 🗅)ay5:		思う・考える「~と思う」						
スケジュール	· ·	netic recombina み換え)について		ディベート(GW:賛成派・反対派に分かれて意見 発表)						
	(6) テキスト: ロ)ay6:		意思「~するんだ」						
 ※講義日数に応じ	テーマ:Pro	oduce(生産する	5)①個人·PW	自身が生産したい農作物・加工品などについて						
て、(1)~(10)の進 行調整を行いま	(7) テキスト: 🗅)ay7:		確認・問い合わせ「~をおたずねします」						
す。	テーマ:Pro	oduce(生産する	5)②GW·発表	自身が生産し	たい農作物・加工品など	について				
	(8) テキスト: [2]	•		命令「~してください」 疑問1「~ですか」						
		oudfunding クラウドファンディ	ィング)①個人・PW	日本のクラウ ロジェクト	ドファンディングで支援し	てみたいプ				
	(9) テキスト: 🗅)ay10:		疑問2「5W1H	を聞く」					
		oudfunding クラウドファンディ	ィング)②GW・発表	海外のクラウ ロジェクト	ドファンディングで支援し	てみたいプ				
	(10) テキスト: ロ)ay11:		喜び・悲しみ	「~してうれしい・悲しい」(W				
	テキスト: [)ay12:		あいづち・話	題転換「そうね」					
			ンディングサイトで みるプロジェクト	仮想店舗のオーナーになってみる						
		括 · 定期試験 区却 · 講義総								
成績評価	注意:受講態	度、レポートな	成績、授業態度 やプリントの未提出、 示が無い場合のスマ		刻・早退・欠席、講義中)使用は減点とする。	<u></u>				

# 羊 利 口	科目名	情報処		教 官 名 大和浩成((有)マリオネット) 恒松海斗((有)マリオネット)				
講 義 科 目	履修学年	2年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む)	13回		
授業形態	パソコンを使	用し、講義と演	習を併用する)				
科目目標 (指導·到達目標)	グラフや表、	パソコンを業務として使えるようにプレゼンテーションソフトを利用して、効果的な グラフや表、発表資料を作成できるようにする。 最終的には、プレゼンテーションの実施方法を学習する。						
テーマ及び概要		小を利用してフ √ゼンテーション			成し、			
使 用 教 材								
①テキスト・教材	① オリジナ	ルテキストPow	er Point基礎·	~活用(マリス	ナネット)			
②参考文献								
		大 項 目			小 項 目			
	1. プレゼンラ	テーションソフト	の基本操作	・プレゼンテ	ーションソフトPower Poi	ntについて		
		•Power Pointの基本操作						
				・プレゼンテ	ーション資料作成			
				・資料の印刷	ij			
				資料のブラ	ッシュアップ			
				グラフや図	形の挿入			
				・オートシェイ	イプの利用			
講義 スケジュール				・クリップアー	ートの利用			
\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\				・表の作成				
	2. プレゼンラ	テーションのリィ	\一サル	・プレゼンテーションで重要なこと				
				・プレゼンテーション能力の活用				
3. 作成資料でプレゼンテーションの実施・プレゼンテーション本番練習								
成績評価	注意:受講態 眠り、私語及	び携帯電話(ス	プリントの未 スマートフォン	提出、講義へ)の使用は減	・の遅刻・早退・欠席、講 点とする。 6、欠席扱いとする。	義中の居		

	科目名	海外実践学		教 官 名	森田 茂樹・丸山 隆太郎				
講 義 科 目 		2年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む) 全12回				
授 業 形 態	講義形式								
科目目標 (指導·到達目標)	解を深め、また	海外でのファームステイや大規模農場等の視察を通じて、海外の農業等に関する理解を深め、また、異文化の生活体験を通して、主体的に問題を解決する力を高め、将来を創造する能力と実践する態度を養う。							
テーマ及び概要	渡航手続きの 学ぶ。	D方法、海外研	₹修の心構え	、訪問国の	既要、訪問先での会話等について				
使 用 教 材	①旅行代理店	作成の事前資	資料						
①テキスト・教材	①渡航前準備	请資料、訪問先	:関連資料及	び映像					
②参考文献	①外部講師作	F成資料等							
		大 項 目			小 項 目				
	1 海外研修(の意義・目的		(1)海外で研	研修する意義				
				(2)海外農業	業研修のポイント				
	2 渡航先の農業情勢・視察先の紹介			(1)地理、歴史、文化 (2)農業の概要 (3)視察先の紹介					
	3 訪問先での簡単な言葉と会話			(1)ファーム	スティ先での会話				
	(旅行英会話)			(2)空港、ホテル、ショッピング等での会話等					
	4 ファームス	ティの実際		(1)ファーム	スティでの心構え				
講義 スケジュール				(2)ファームスティで学ぶこと					
				(3)ファームスティ先への挨拶状					
	 5 自主研修(のプラン作成		(1)班決め					
				(2)班ごとの)視察プラン作成				
	6 渡航手続	きの実際		(1)パスポー	−トの取得				
				(2)査証(ビ	ザ)について				
				(3)出国と	(国				
				(4)持ち出し	物と持ち込み物				
	7 海外農業研修報告書の作成								
	評価:講義出	席状況、提出物	勿状況、講郭	遠のレポートや	や講義への取り組み状況等				
成績評価					早退・欠席、講義中の居眠り、私語 、及び翻訳作業に限り、使用を認				

-# ¥ N D	科目名	国語(新聞	トピックス)	教 官 名	長澤 久美子	2
講義科目	履修学年	2年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む)	12回
授業形態	講義及び演習					
科目目標 (指導·到達目標)	り、論理的表現	見や文章の展 読み込むこと	開などを身に	付ける。また	章を書写し要旨をまとめた、環境や農業・農村等 試験の際、小論文や面持	こ関するト
	テーマ	「論理的な文 識の修得」	章の構成力	及び農業系の	の進学(就職)試験で必要	要な基礎知
テーマ及び概要	概要		する。農業系		〔書写・要旨まとめを行い 試試験で必要な基礎知識	
使用教材	①冬種新閉等	の論説文(社	·説わコラム等	生) 搢培わり	農業・農村等に関するトヒ	^e ックスの
①テキスト・教材	写し			T/ (*** *** (* 1)		. , , , , , ,
②参考文献 		<u> </u>			.h. 75 D	
		大項目			小 項 目	
	1 新聞論説 	文の書写		(1)書写		
				(2)要旨まる	とめ	
				(3)表現		
				(4)まとめ		
講義スケジュール	2 基礎知識	の修得		(1)環境		
				(2)農業		
				(3)農村		
	評価:演習にお 	おける課題提	出及び内容に	こよる評価・其	明 末試験成績	
成績評価	及び携帯	電話(スマー	トフォン)の使	用は減点と	早退・欠席、講義中の居間 する。 い場合、欠席扱いにする	

講義科目	科目名	国際農業論	教 官 名	本田 剛	司				
19 32 19 LI	履修学年	2年 単位数	1単位	講義回数予定 (うち各1回は定期試験含む)	13回				
授 業 形 態	講義及び演習方	式							
科目目標 (指導·到達目標)		1 国際人としての素養感覚の涵養 2 米国、中国等主要国と日本農業との比較理解							
テ ー マ及び 概要	2 米国、中国等主要国と日本農業との比較理解 世界の中の日本農業のあり方を考えるとともに、特に影響のある国の農業について学習する。また、国際農業交渉TPP、FTA等の基礎について学習し学生自らが国際人としての自覚と広い視野を学ぶ機会とする。 1 国際感覚入門、国際人としての素養を理解する 2 国際農業交渉の歴史とTPPの行方と交渉内容その日本の農業への影響 3 (1) アメリカの農業、アメリカ農村生活輪読等 (2) EUの農業等、特に直接払い制度の現状 (3) 中国の農業、食の安全への取組等 (4)輸出産業としての日本農業の課題と対応について (5) オーストラリアの農業の実力								
使 用 教 材	① 日々の講義!	ノポート							
①テキスト・教材		•	生資料及び	新聞、インターネット情報、					
②参考文献	(1)「新・よくわか								
乙多为人脉	-		王巴及未云的 						
	大項	₹ 🗎	(1)口木 1/	小項目 の国際感覚は、日本と諸外	国を比較して				
	1 国際感覚入	門	学ぶ	ク国际心見は、ロ本と紹介	国で比較して				
			(2)外国から	ら見る日本					
	2 国際農業交流日本農業への影		(1)WTOとは、TPPとは。 基礎理解						
			(2)国際貿	易交渉への日本の対応にて	ついて				
			(3)国際貿	易への各国への対応の違い	いについて				
	3 輸出の理解		(1)農産物	輸出の課題と対応について					
	4 主要国の農	業	(1)アメリカ	の農業					
講義			アアメル	力農業の特徴					
スケジュール			イ アメル 広げる	カ農村生活について学び」	北較する視野を				
			(2)EUの農	業等					
			ア EU農	業の現状					
			イ 直接	支払いへの取組					
			(3)中国の	農業					
				農業の現状					
				安全への取組					
				ラリアの農業					
	_ #			ストラリア農業の弱点					
	5 農政用語解			解のための基礎用語理解					
成績評価		プリントの未提	出、講義への	出回数 D遅刻・早退・欠席、講義中 は、注意に従わない場合に					
	_		-						

	科目名	—————————————————————————————————————	教官名	川田博史				
講義科目	履修学年	2 年 単位数	1単位	講義回数予定 14回 (うち1回は定期試験を含む)				
授業形態		 心に展開し、平行し 受業を2回おこなう						
科目目標 (指導·到達目標)		复式農業簿記の原理を理解し、演習することにより、記帳の習慣を身につけ、 将来の農業経営に役立てる。						
テーマおよび概要				用して理解を深める。 なることを理解して演習をする。				
使 用 教 材 ①テキスト・教材 ②参考文献		食定 教科書3級 食定 問題集3級	-					
		大 項 目						
	1 農業簿記	の概要	①簿	記とは ②農業とは ③農業簿記の目的				
				①取引とは ②仕訳と転記 ③仕訳帳と総勘定元帳伝票とは ④主要簿と補助簿 ⑤試算表				
	3 勘定科目		①農	業簿記の勘定科目 ②農業経営と勘定科目				
講義 スケジュール	4 収益・費月	用の記帳方法	①4又	益と費用 ②農業特有の会計処理				
	5 流動資産・流動負債など			①流動資産 ②棚卸資産 ③繰延資産 ④流動負債 ⑤固定負債 ⑥資本金				
	6 固定資産	Ī		①有形固定資産 ②修繕費と資本的支出 ③有形固定資産の売却				
	7 決算書の	作成	<u> </u>	算書作成までの手順 算の具体的手続き				
	8 まとめ		①農	業簿記全般のまとめ				
	新 中 . 中世	 試験と講義中の!	能産む トァ゙山	友 华识				
成績評価	の居眠り、私語および携帯電話(スマートフォン)の使用は減点とする。							
	特に	.、スマホの使用に	ついては、注	意に従わない場合、欠席扱いとする。 				

 講 義 科 目	科目名	農業団体	∹法人論	教 官 名	JA熊本中央会	他				
一种 我 14 口	履修学年	2年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む)	12回				
授 業 形 態	講義形式									
	JA(農業協同	JA(農業協同組合)の目的と理念を正しく理解する。								
科目目標 (指導·到達目標)				ヽる「働き方改 する第一歩と	革」の意義や労務管理 <i>の</i> する。)重要性を理				
テーマ及び概要	事業内容並で 将来、農業	農村社会を支えるJA(農業協同組合)について、設置の目的や役割、組織の運営状況、事業内容並びに今後の課題等を体系的に学ぶ。 将来、農業経営者となった時、労働環境の改善等を自ら実践することにより産業としての 農業の魅力アップを図るため、労働雇用関連法や「働き方改革関連法案」等について学 ぶ。								
使 用 教 材	①「私たちと、	JA」13訂版(全国農業協	同組合中央会	· 注発行)					
①テキスト・教材	②「農業こそ!協同組合中!		!~働き方	改革で農業を	新しい産業にしよう!~」	(熊本県農業				
②参考文献	③「まんができ 中央会発行)		美版!これか	ら人を雇うとき	きのポイント40」(熊本県)	農業協同組合				
		大 項 目			小 項 目					
	1 JA(農業	(協同組合)に	こついて	(1)JAのあらまし						
				(2)JAの生い立ちと歩み						
				(3)JAの組織	徴・運営					
				(4)JAの事業	美と活動					
				(5)持続可能	おおおり おうしゅう おうな 思いま おうしゅう おうしゅう おうしゅ おうしゅう はいい はい	そづくり				
講義	2 農業に いて	おける「働き方	で改革」につ	(1)「働き方						
スケジュール	6,6			(2)魅力的な	求人条件を整えるために	-				
				(3)良い人材	育成は良い職場環境か	ь				
	3 雇用の <i>†</i>	ための労務管	理について	(1)人を雇う	心構え					
				(2)求人•面	接する際のポイント					
					めに整備すべきこと 心して働ける労働環境で	ぶくり)				
				(4)就業者が	「やる気をだす労働環境で	づくり				
	評価:定期者	····· 含香、課題、学	全習態度、出	 席状況を勘案	して評価する。					
成績評価	私語及	なび携帯電話	(スマートファ		早退・欠席、講義中の居 滅点する。特に、スマホの する。					

講義科目	科目名	卒業論文(農特産)	教 官 名	月田 裕	····································		
H17 420 111 LI	履修学年	2年	単位数	7単位	講義回数予定	62回		
授業形態	講義及び演習) =		実務経験内容	普及指導員(作物)			
科目目標 (指導·到達目標)	プロジェクト! る。	プロジェクト学習を通じて課題解決の過程を学び、その成果を卒業論文としてまとめ。						
テーマ及び概要		ま文の構成や文章の表現方法、データの整理方法などについて学習し、取りまとめ なび考察を行う。						
使 用 教 材								
①テキスト・教材	各講義で使用	用するテキスト	と教材					
②参考文献	農特産関係	文献						
		大 項 目			小 項 目			
	1 論文作成	の基礎知識		(1)論文の構	成とまとめ方			
				(2)論文の書	き方			
	2 調査資料のまとめ方			(1)調査した [・]	データの処理方法			
				①パソコンを使ったデータ処理				
				_	ゥグラフなどの図形化	作成		
					最影と写真整理			
講義スケジュール	3 文献、参	考図書の活用						
	4 論文の作	成		卒業論文作成 作成	找手引きに基づいた 。	卒業論文の		
成績評価	評価:卒業論	文評価基準に	より評価す	·-る。				

講義科目	科目名	卒業論文	(花き)	教 官 名	渡邉□	为		
H17 420 11 L1	履修学年	2年	単位数	7単位	講義回数予定	62回		
授業形態	講義及び演習			実務経験内容	普及指導員(花き)			
科目目標 (指導·到達目標)	プロジェクト! る。	プロジェクト学習を通じて課題解決の過程を学び、その成果を卒業論文としてまとめる。						
テーマ及び概要		文の構成や文章の表現方法、データの整理方法などについて学習し、取りまとめ び考察を行う。						
使 用 教 材								
①テキスト・教材	各講義で使用	用するテキスト	と教材					
②参考文献	花き関係文献	犬						
		大項目			小 項 目			
	1 論文作成	の基礎知識		(1)論文の構	成とまとめ方			
				(2)論文の書	き方			
	2 調査資料のまとめ方			(1)調査した [・]	データの処理方法			
				①パソコンを使ったデータ処理				
				②統計処理やグラフなどの図形作成				
					最影と写真整理			
講義スケジュール	3 文献、参	考図書の活用						
	4 論文の作	成		卒業論文作成 作成	找手引きに基づいた 。	卒業論文の		
成績評価	評価:卒業論	文評価基準に	より評価す	⁻る。				

講義科目	科目名	卒業論文	(果樹)	教 官 名	清水 那	子		
H 17 420 17 L1	履修学年	2年	単位数	7単位	講義回数予定	62回		
授業形態	講義及び演習			実務経験内容	普及指導員(果樹)			
科目目標 (指導·到達目標)	プロジェクト! る。	プロジェクト学習を通じて課題解決の過程を学び、その成果を卒業論文としてまとめる。						
テーマ及び概要		i文の構成や文章の表現方法、データの整理方法などについて学習し、取りまとめ び考察を行う。						
使 用 教 材								
①テキスト・教材	各講義で使用	用するテキスト	と教材					
②参考文献	果樹関係文献	献						
		大 項 目			小項目			
	1 論文作成	 の基礎知識		 (1)論文の構	 :成とまとめ方			
				(2)論文の書				
					273			
	2 調杏咨判	のまとめち		(1)調査 た・	データの処理方法			
	2 調査資料のまとめ方			①パソコンを使ったデータ処理				
				①バフコンを使ったナーダ処理 ②統計処理やグラフなどの図形作成				
						F		
				③カメブでの}	最影と写真整理			
	2 文献 参	考図書の活用						
講義スケジュール		50百07071						
	4 論文の作	成		卒業論文作 ^反 作成	找手引きに基づいた♪	卒業論文の		
成績評価	評価:卒業論	文評価基準に	より評価す	⁻ る。				

講義科目	科目名	卒業論文	(野菜)	教 官 名	吉田 達雄・宮	宮本 陽造		
H17 420 11 L1	履修学年	2年	単位数	7単位	講義回数予定	62回		
授業形態	講義及び演習			実務経験内容	普及指導員(野菜)			
科目目標 (指導·到達目標)	プロジェクト! る。	プロジェクト学習を通じて課題解決の過程を学び、その成果を卒業論文としてまとめる。						
テーマ及び概要		文の構成や文章の表現方法、データの整理方法などについて学習し、取りまとめ び考察を行う。						
使 用 教 材								
①テキスト・教材	各講義で使用	用するテキスト	と教材					
②参考文献	野菜関係文献	猒						
		大 項 目			小項目			
	1 論文作成	 の基礎知識		 (1)論文の構	 成とまとめ方			
				(2)論文の書き方				
				. , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,				
	2 調査資料のまとめ方			(1)調査した	データの処理方法			
				①パソコンを使ったデータ処理				
				_	とうたり ア紀程 bグラフなどの図形化	' = πt		
					最影と写真整理	F 19%		
				3/1/ / C0/1	取別と子具定理			
	2 女 故 	*回妻の活田						
講義スケジュール	3 大阪、参加	考図書の活用						
	4 論文の作	成		卒業論文作 ^成 作成	뷫手引きに基づいた	卒業論文の		
成績評価	評価:卒業論	文評価基準に	より評価す	⁻ る。				

講義科目	科 目 名 卒業論文(畜産)		教 官 名	古田 雅子 角崎 智洋		
	履修学年	2年	単位数	7単位	講義回数予定	62回
授業形態	講義及び演習			実務経験内容 普及指導員(畜産)		
科目目標 (指導·到達目標)	プロジェクト学習を通じて課題解決の過程を学び、その成果を卒業論文としてまとめる。					
テーマ及び概要	論文の構成や文章の表現方法、データの整理方法などについて学習し、取りまとめ 及び考察を行う。					
使 用 教 材						
①テキスト・教材	各講義で使用するテキストと教材					
②参考文献	畜産関係文献					
	大 項 目			小 項 目		
講義スケジュール	1 論文作成	の基礎知識		(1)論文の構	成とまとめ方	
			(2)論文の書き方			
	2 調査資料のまとめ方			(1)調査したデータの処理方法		
				①パソコンを使ったデータ処理		
				②統計処理やグラフなどの図形作成		
				③写真などの撮影と整理		
	3 文献、参	考図書の活用				
	4 論文の作成			卒業論文作成手引きに基づいた卒業論文の 作成		
成 績 評 価	評価:卒業論文評価基準により評価する。					

=# * 11 D	科目名	病害	 虫論	教 官 名	松村正哉(虫 平八重一之(я	2 1 2				
講義科目	履修学年	2年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む)	12回				
授 業 形 態	講義形式									
科 目 目 標 (指導・到達目標)		作物の病害虫防除管理を遂行するうえで必要不可欠な基礎知識を習得する。また実際の 防除例を学ばせ、防除に対する多様な発想、考え方を身につけさせる。								
テーマ及び概要	作物の高品質相も複雑化す 効率的な農薬 理法(IPM)の 発生生態、ま	化を求める消る傾向にある 使用が求めら 推進が益々す た農薬の特性	費者の動向。一方では1。 ・一方では1。 れるように 要になって や安全使用	可のため、対応 食の安全・安心 なってきており いる。 その対	可欠である。近年、侵入病が必要な病害虫は増加しかわ周辺環境への影響防、農薬のみに頼らない総応に当たって必要となるが、除管理に必要な基礎知	、その発生様 止の観点から 合的病害虫管 作物病害虫の				
使 用 教 材										
①テキスト・教材	 ①配布プリン	•								
②参考文献										
-	大巧	月目			小 項 目					
	1. 害虫概論		(1)昆虫と	害虫 一農作物	物の害虫はなぜうまれる <i>だ</i>) / —				
		農業生産と害虫、昆虫の起源、特徴、分類								
			(2)害虫の	生態						
				生活環と季節	i適応、害虫化と分布拡大	の要因				
			(3)害虫の	生理・害虫管	理の理論					
			(4)害虫防	除(害虫管理)	 の手法					
				生物的防除、	物理的防除、耕種的防除	\				
			(5)農薬の	基礎知識と使						
講義 スケジュール			(= / /2014 = -							
	 2 病害概論		(1)農作物	の病気とは						
			(2)病原の	種類と性質						
			(3)病気の	診断法						
			植物診	。 诊断、圃場診断	f、病原体の同定					
			(4)病気の							
				京、伝搬方法、	発牛環境					
			(5)病気の							
				的防除、総合防	ī除(IPM)					
成績評価	注意:レポート	テストの成績 ·やプリントのぇ	及び出席状 k提出、講 <mark></mark>	:況や講義態度 遠への遅刻・早	をなどにより総合的に評価 退・欠席、講義中の居眠 意に従わない場合は欠席	り、私語は減				

		15.1.4-04.1							
 講義科目	科目名	栽培経営実	《習(農特産) 	教 官 名	戸上 皓一郎 	·			
一种 技 14 口	履修学年	1年	単位数	22単位	講義回数予定	通年			
授業形態		講義及び実習	3 1	実務経験内容	普及指導員(茶)				
科目目標 (指導·到達目標)		農大で栽培する土地利用型作物や工芸作物の栽培方法及び肥培管理技術を習得し、プロ ジェクト学習の専攻作物を実際に栽培できるようになる。							
テーマ及び概要	たばこ、いぐ	農大内外のほ場において、農業者として身に付けておくべき、農作物(特に水稲、麦、大豆、上ばこ、いぐさ、茶)の栽培管理及びほ場管理の基礎知識や基本技術を学ぶ。 特にプロジェクト学習における専攻作物については重点的に管理技術を学ぶ							
使 用 教 材									
①テキスト・教材	ほ場における	育苗、栽培管	管理						
②参考文献	農業機械や	各種資材具等	を使用しての	管理実習					
		大 項 目			小 項 目				
	1 ほ場栽培	管理							
	(2)耕起・整地・代かき・畝立て等作物栽培 に必要なほ場管理								
	 2 作物栽培	管 理		(1)作物播租	• 育苗管理				
	(プロジェクト学習)			(2)水管理、					
					及び調査データ処理				
					燥、出荷・調整作業				
				(5)品質鑑定					
講義					- fによる施肥設計				
スケジュール 				(7)病害虫防					
) lay				
	 3 特産加工			(1) 製本技術	の基礎				
	0 N.E.			(1)製茶技術の基礎 (2)仕上げ作業					
				(=/ ==:/	*				
	 4 生産物販	売		(1)各品目 <i>(</i> 2)選果及び包装				
					売状況の把握				
				\-/ \	,				
成 績 評 価	O点満点)。た 注意:レポー 携帯電話(ス	とだし、出席率 トやプリントの	が90%未満 ま提出、講義 の使用は減点	の者は成績評 への遅刻・早	況(40%)により総合的に 呼価の対象にしない。 退・欠席、講義中の居眠り 、スマートフォンの使用につ	、私語及び			

	科目名	—————————————————————————————————————	 生産論	教 官 名	戸上 皓一」	钼	
│ │ 講義科目	14 11 11	1 F 123 -	工/王 im	7		~1	
	履修学年	1年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む)	11回	
授業形態	講義			実務経験内容	普及指導員(茶)		
科目目標 (指導·到達目標)				うえで必要とされた	れる基礎的な知識・技術 する。	うを修得す	
テーマ及び概要	主要農作物及ての基礎的な			生態、肥培管理	₹、加工利用、流通制度	等につい	
使 用 教 材							
①テキスト・教材	①作物栽培の)基礎(農山)	魚村文化協会)				
②参考文献	②その他技術						
	大項				項目		
	1 作物につい	いて			(2)世界の作物生産の		
			(3)わが国の作物生産の動[(4)わが国の作物生産の課題				
	o 丰 ※5		/1) 主装の性:	処をしまし ロ	(の) 実粉の一件も成長		
	2 麦類		(1)麦類の特 (3)栽培の実		(2)麦類の一生と成長(4)流通と経営の特徴		
			(3) 秋垣の天	冰	(4)加迪C柱名の特別	(
	3 豆類		(1)大豆の特	徴と利用	(2)大豆の一生と成長		
			(3)大豆栽培		(4)流通と経営の特徴		
	4 茶	4 茶		と利用	(2)茶の一生と成長		
			(3)茶栽培の	実際	(4)茶の加工		
講義							
スケジュール	5 いぐさ		(1)いぐさの特		(2)いぐさの一生と成っ		
			(3)いぐさ栽培	音の実際	(4)地域の課題と取り組み		
	6 タバコ		(1) h . i - n h	ᆂᄽᄹᇈᆂᆘᄆ	(0) 4 i 3 0	E	
	0 3/17		(1)タバコの特(3)タバコ栽培		(2)タバコの一生と成っ(4)地域の課題と取り		
			(3)ダハコ秋坑	の天际	(4)地域の味趣と似り	祖の	
	 7 イモ類		(1)ジャガイモ	の特徴と利用	(2)ジャガイモの一生	と成長	
	- / - //.				(4)サツマイモの特徴		
					(6)サツマイモ栽培の		
	評価:定期考: 満点)。	査(70%)、と	出席状況や講郭	菱態度(30%)	により総合的に評価する	る(100点	
成 績 評 価	注意:レポート				講義中の居眠り、私語		
			用は減点とする 場合は欠席扱い		電話(スマートフォン)の	使用につ	
	いては、注息	ころにイン/よしい珍	カロは人所扱し	·Cりる。			

5# ** TJ 🖪	科目名	経営実習	(農特産)	教 官 名	月田 裕.	L				
講義科目	履修学年	2年	単位数	28単位	講義回数予定	通年				
授業形態	講義及び実	習		実務経験内容	普及指導員(作物)					
科目目標 (指導·到達目標)	培技術につ	各自が取り組むプロジェクトの品目について、常に調査と観察を行うことを基本に 音技術について知識を深めるとともに、天候などの変化に対応し、的確な栽培管理 ができるようにする。								
テーマ及び概要	大豆、茶、乾	農大内外のほ場において、農業者として身に付けておくべき農作物(特に稲、麦、大豆、茶、転作作物等)の栽培管理及びほ場管理の基礎知識や基本技術を学ぶ。 特に、プロジェクト研究における専攻作物については重点的に管理技術の習得を 行う。								
使 用 教 材										
①テキスト・教材	ほ場におけん	る育苗、栽培管	管理							
②参考文献	農業機械や	各種資材等を	使用しての管	西 理実習						
		大 項 目			小 項 目					
	1 ほ場栽培	音理		(1)ほ場及び周辺の除草						
				(2)耕起•整	地・代かき・畝立て等	作物				
				栽培に必	必要なほ場管理					
	2 作物栽培	管理		(1)作物播種•育苗管理						
				(2)水管理、施肥管理						
				(3)生育調査						
				(4)収穫、燥機、調整作業						
				(5)品質鑑定						
講義スケジュール				(6)土壌分析による施肥設計						
				(7)病害虫防除						
		0 -								
成績評価	びスマートフ		は減点とする		欠席、講義中の居眼 ートフォンの使用につ					

	科 目 名 農特産ゼ	₹Ⅱ、Ⅲ	教 官 名	月田 裕	L				
講義科目	履修学年 2年	単位数	各1単位	講義回数予定	前期 13回 後期 10回				
授 業 形 態	講義・ゼミ		実務経験内容	普及指導員(作物)					
科目目標 (指導·到達目標)		調査データの取り扱いについて理解を深め、プロジェクト発表や卒業論文の考察に必要な文献の検索と引用ができるようにする。							
テーマ及び概要		試験研究機関等で発表された論文等の内容について討議し、作物に関する知識を深 うるとともに、調査データの整理や発表方法に関する基礎知識・技術の向上を図る。							
使 用 教 材									
①テキスト・教材									
②参考文献	試験研究機関成績書、成界	?情報等							
	大 項 目								
	1 論文形式の文章につい	<u>τ</u>	(1)論文の村	 構成とまとめ方					
			(2)論文の書き方						
	 2 調査資料のまとめ方		(1)調査データの記録と整理方法						
	上 网里英州(0) 65 年 65 7 7 5	(2)記録したデータの処理方法							
			(2) 記録した アンの処理力法 ① パソコンを使ったデータ処理						
			② 統計処理やグラフなどの図形作成						
			③ 写真などの撮影と整理						
講義スケジュール			ついて (1)成績書等の内容を理解し発表する						
	3 試験研究機関の研究成 	果について							
			(2)多くの語	食文を読み、研究のまと	の万を字ふ				
成績評価	スマートフォンの使用等は源	レポートやプリントの未提出、講義への遅刻・早退・欠席、講義中の居眠り、私語及び スマートフォンの使用等は減点とする。特に、スマートフォンの使用については、注意に だわない場合、欠席扱いとする。							

=# ** *	科目名	農特産	 経営論	教	官	名	月田 裕人					
講義科目	履修学年	2年	単位数	1	単位	<u>†</u>	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む)	12回				
授業形態	講義及び演習			実務	経験	内容	普及指導員(作物)					
科目目標 (指導·到達目標)		土地利用型作物を中心とした経営の特徴を理解するとともに、経営分析等を行い5年 後の経営設計を行う。										
テーマ及び概要		土地利用型作物における経営上の特徴と、経営の実態把握や経営改善のための具 本的な取り組み方について理解する。										
使 用 教 材												
①テキスト・教材	熊本県農業網	経営指標(熊2	本県発行)									
②参考文献	農林水産省化	作成のパンフし	ノット等									
			小 項 目									
	1 土地利用	型作物経営の)特徴	(1)土地利用型作物経営の特徴								
				(2)県指標に見る品目別経営収支								
					(3)国の農業政策の変遷							
	 2 経営分析の基礎的な考え方				(1)経営分析の流れ							
	と「性色力が必要能的な考え力			(2)前提条件の把握								
				(土地条件、土地利用体系、栽培方法、								
							(工地条件、工地利用体系、栽培力法、品種構成、機械化・施設装備、その他)					
				(3)月別作業労働時間								
講義スケジュール				(4)経営収支								
	3 経営改善 	のための様々	な手法	(1)省力、低コスト栽培技術								
				(2)高収量、高品質栽培技術								
				(3)加工および直販など								
	 4 5年後の約	怪営シミュレー	-ション									
	レポートや「	プリントの未均	出し講義へん	か ほ	刻••	11000	·欠席、講義中の居眠り					
成績評価	びスマートフ:	ォンの使用等	は減点とする				ートフォンの使用につい					
	意に従わなし 	、 場合、欠席抗	及いとする。									

講義科目	科目名	栽培経営	実習(花き) 	教 官 名	青木 孝	≦枝 ·				
	履修学年	1年	単位数	22単位	講義回数予定	通年				
授業形態	実習 花き生産法 会	花き生産法人、農大卒業生の花き生産者、地域営農法人等の校外研修・各種研修								
科目目標 (指導·到達目標)	せ、経営と栽	花きに関する体験的・実践的な学習をとおして、総合的な生産技術や知識を習得させ、経営と栽培管理についての理解を深めさせるとともに、管理能力や課題への対応能力など、より実践的な能力と態度を育成する。								
テーマ及び概要		花きの栽培管理やプロジェクト学習をとおして、栽培管理技術の基礎、収穫物の調整・出荷方法について習得するとともに、プロジェクト学習の進め方について理解を 深める。								
使 用 教 材 ①テキスト・教材 ②参考文献	校内圃場に	こおける栽培管	理							
		大 項 目			小 項 目					
	1 栽培管理	技術の習得		(1)トルコギ	キョウ					
				(2)宿根カス	スミソウ					
				(3)スターチ	ス・シヌアータ					
				(4)ラナンキ	-ュラス(鉢物)					
				(5)ラナンキ	-ュラス(切り花)					
				(6)シクラメ	ン(鉢物)					
				(7)アジサイ	(の管理(花壇用ア	ジサイ)				
				(8)球根切り	り花類(カラー、クル	/クマなど)				
				(9)花壇用語	苗もの(パンジー、l	ごオラなど)				
講義 スケジュール										
	2 プロジェク	小学習の進め	方	(1)試験設調	i					
				(2)栽培計區	画					
				(3)各種調查	查					
				(4)調査デ-	ータ処理					
				(5)結果とり	まとめ					
				(6)考察						
	 3 生産物販	売		(1)花き類の	D収穫方法					
				(2)鮮度保持	寺剤の使い方					
				(3)販売時(の色あわせ等					
成績評価	出席状況(状況·受講態ß		ごにより総合的に評 績評価の対象にし					
7∞ 作来 □〒 Щ	(スマートフォ		咸点とする。特		退・欠席、私語及で 使用については、					

	科目名	 花き生	 産論	教 官 名	青木 孝林	 \$			
講義科目	11 11 11	16C I	/土 中間	 Д Д	講義回数予定	^			
	履修学年	1年	単位数	1単位	研我四致アル (うち1回は定期試験を含む)	11回			
授 業 形 態	講義形式								
科目目標 (指導·到達目標)		花き栽培を行う上で必要な環境制御に係る知識(気象、土壌、病害虫等)を理解し、花き 栽培の実践に応用できる能力を身につけることができる。							
テーマ及び概要	花き栽培上	花き栽培上必要な環境制御について学び、花きを栽培するうえでの応用力を養う。							
使 用 教 材 ①テキスト・教材 ②参考文献	草花栽培の	草花栽培の基礎、花卉園芸学の基礎							
		大項目			小 項 目				
	1 花きの種 	類と分類							
	2 花きの繁	殖方法							
	3 育種と品	種							
	4 土壌管理			(1)施設·露地花きの栽培土壌の特徴 (2)土壌消毒法					
	5 肥料・土	壌改良資材 <i>0</i>	の種類と特征	(1)肥料(基肥、追肥)の特徴 (2)土壌改良資材の特徴					
	6 土壌診断	fと施肥		(1)肥料·施肥法と施肥設計 (2)栄養診断					
講義 スケジュール	7 かん水材	泛術		(1)切り花栽培でのかん水法の種類と特徴 (2)鉢物・花壇苗栽培でのかん水法の種類と特徴					
	8 かん水同]時施肥栽培	技術	(1)かん水同時施肥栽培の仕組みと方式					
	9 施設にお	ける被覆資	材の利用	(1)被覆資材の種類と特徴 (2)被覆資材利用の工夫					
	10 施設栽均	音と環境管理	!	(1)施設の種類と構造 (2)施設の光環境調節 (3)施設内の温湿度制御					
	11 病害虫[方除①		(1)耕種的防	方除 (2)化学的防除				
	12 病害虫[方除②		(1)花きの主要病害虫とその防除 (2)天敵を利用した総合病害虫管理(IPM)					
□ 4 = □ /≖		60%) +レポ	ピート・プリン	大況、筆記試駅 小等の提出(
成積評価	電話等の		さする。特		欠席、講義中の居眠り、 等の使用について指示!				

講義科目	科目名	栽培経営	実習(花き)	教 官 名	渡邉	功				
	履修学年	2年	単位数	28単位	講義回数予定	通年				
授 業 形 態	実習			実務経験内容 普及指導員(花き)						
科目目標 (指導·到達目標)					理技術やせん定・整 できる力を身に付け					
テーマ及び概要	調整方法につ	きの栽培管理やプロジェクト学習をとおして、基本的な栽培管理技術や収穫物の整方法について学習するとともに、花き栽培の経営能力を培う。併せて物事を科的にとらえ分析する能力も養う。								
使 用 教 材 ①テキスト・教材 ②参考文献	校内圃場にお	内圃場における栽培管理								
		大 項 目			小 項 目					
	1 栽培管理	技術の習得		 (1)シクラメン (2)トルコギキョウ (3)新鉄砲ユリ (4)カラー (5)ラナンキュラス・花壇苗 						
講義スケジュール	2 プロジェクト学習の進め方			(1)試験設計 (2)栽培計画 (3)各種調査 (4)調査データ処理 (5)結果とりまとめ (6)考察						
	3 生産物販	売		(1)花き類の収穫方法 (2)鮮度保持剤・染色剤等の使い方 (3)販売時の色あわせ等						
評価:知識・技術(30点)、履修態度(30点)、出席状況(40点)により総合的に評価する。(100点満点)ただし、出席率が90%未満の者は成績評価の対象にしない。 【注意事項】 レポートやプリントの未提出、講義への遅刻・早退・欠席、講義中の居眠り、私語及び携帯電話(スマートフォン)の使用は減点とする。特に、スマホの使用については、注意に従わない場合、欠席扱いとする。										

	科目名	 花きゼ	∃ I • II	教 官 名	渡邉	'n				
講義科目	履修学年	2年	単位数	2単位	講義回数予定	13回・10回				
授業形態	演習			実務経験内容	普及指導員(花き)					
科目目標 (指導·到達目標)		経営実習を通じてのプロジェクト課題の試験調査方法を理解させると共に卒業に向けた 卒業論文の作成方法について演習することにより論文の完成と発表力を習得させる。								
テーマ及び概要		プロジェクト学習活動で栽培した花きの特性や成果について調査・取りまとめを行う。同 :に、効果的でわかりやすい発表方法を習得する。								
使 用 教 材	草花栽培の	基礎								
①テキスト・教材	農業技術体系	系、花き園芸	大百科							
②参考文献	論文・レポー	トの書き方								
		大項目			小 項 目					
講義スケジュール	1 栽培に取り組んだ花きの特性 について 2 プロジェクト学習成果のまとめ			 (1)花きの名称 (2)原産地と来歴 (3)作型と主要品目(県内での栽培状況) (4)生育特性						
				供試品目(品種)・試験区内容・施肥量 耕種概要・栽培の説明 (4)結果 生育調査・収量調査・品質調査 (5)考察 (6)参考資料						
	3 研究成果の要約と発表会の実施									
成績評価	ト等の提出(! 【注意事項】 レポートやプ 帯電話(スマ	評価:出席状況(20%)、受講態度(30%)、発表やレポートの評価及びレポート・プリント等の提出(50%)などにより総合的に評価する。(100点満点) 【注意事項】 レポートやプリントの未提出、講義への遅刻・早退・欠席、講義中の居眠り、私語及び携帯電話(スマートフォン)の使用は減点とする。特に、スマホの使用については、注意に従わない場合、欠席扱いとする。								

	科目名	花き経	 営論	教 官 名	渡邉 功]			
講義科目	履修学年	2年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む)	12回			
授業形態	講義及び演習	義及び演習 実務経験内容 普及指導員(花き)							
科目目標 (指導·到達目標)		圣営における説 1法を理解させ		させると共に	、経営分析手法の演習	により、経営			
テーマ及び概要	について理解 自分の住ん	だき栽培における経営上の特徴と実態把握や経営改善のための具体的な取り組み方ついて理解する。 目分の住んでいる地域の農業概況を調べ、気象・土壌条件や、地域農業の特色と問点を把握する。							
使 用 教 材	熊本県農業総	E営指標							
①テキスト・教材	農業技術体系	え、花き園芸大	百科						
②参考文献	花卉園芸学								
講義スケジュール	1 花き生産の 2 我が町の 3 農業経営 (農業概況		(1)地域概 (2)農業生 (3)地域農 (1)労働力 (2)耕作面 (3)作付体 (4)月別労 (5)作物別	商品性、流通・販売の特別 深 産状況 業の動向と問題点 の把握・役割分担 積 系 働時間(作物別) 生産経費 設・農業機械の整備状況				
成 績 評 価	評価:出席状況(10%)、演習での取組状況(30%)や受講態度(10%)、レポート(50%)により総合的に評価する。(100点満点) 【注意事項】 レポートやプリントの未提出、講義への遅刻・早退・欠席、講義中の居眠り、私語及び携帯電話(スマートフォン)の使用は減点とする。特に、スマホの使用については、注意に従わない場合、欠席扱いとする。								

	T.				T				
講義科目	科目名	栽培経営実	(果樹)	教 官 名	野中等	実			
中 我 11 口	履修学年	1年	単位数	22単位	講義回数予定	通年			
授業形態	実習·演習·校	外研修		実務経験内容	普及指導員(果樹))			
科目目標 (指導·到達目標)	年間を通じて、習得させる。	年間を通じて、各果樹の生育相を理解させ、それに対応する基礎的な栽培管理技術を 習得させる。							
テーマ及び概要		校内果樹園の栽培管理ならびに校外研修(県農研センター果樹研究所、果実利用製 造施設)等を通じて、果樹経営に必要な栽培管理の基礎的知識・技術の習得を図る。							
使 用 教 材 ①テキスト・教材 ②参考文献	フルーツ&フ川	7ルーツ&フルーツ(熊本県果実連)							
		大項目			小 項 目				
	1 整枝・せん	定		(1)生育期の枝梢管理方法 (2)休眠期の整枝・せん定 (3)カンキツの大苗育苗					
	2 結実管理			(1)人工受粉 (2)摘蕾、摘房、摘果 (3)施設栽培における枝吊り・玉吊り					
	3 施肥•地表	面管理		(1)除草、しき草、シートマルチ (2)土壌改良、施肥					
講義 スケジュール	4 収穫販売			(1)収穫作業・選果 (2)校内販売					
	5 ハウス管理			(1)温度·水分管理 (2)施設管理(被覆、災害対策、補修)					
	6 園地管理			(1)移植・改植 (2)棚の整備・補修 (3)防災対策					
	7 校外研修			(1)県農業研究センター果樹研究所(10回) (2)その他(優良果樹農家視察など)					
成 績 評 価	ただし、出席率 なお、実習への	が90%未満の 遅刻・早退・欠	者は成績評 席、実習中 <i>0</i>	価の対象にしな)居眠り、私語ま	総合的に評価する(i い。 らよび携帯電話(スマ 注意に従わない場合	ートフォン)使			

講義科目	科目名	常緑·落葉果樹 (7~3		教 官 名	野中実				
神 我 符 日	履修学年	1年	単位数	2単位	講義回数予定 (うち2回は定期試験を含む)	I :14回 II :14回			
授業形態	講義·実習			実務経験内容	普及指導員(果樹)				
科目目標 (指導·到達目標)	本県で栽培さ解させる。	本県で栽培されている主要な常緑果樹及び落葉果樹について、生理生態と生産技術を理 解させる。							
テーマ及び概要	常緑果樹及で	常緑果樹及び落葉果樹の栽培管理に必要な専門知識と栽培技術を習得させる。							
使 用 教 材									
①テキスト・教材	・ひと目でわ; ・ひと目でわ;	ミナー 新版果樹 かる果樹の病害 5 かる果樹の病害 5 かる果樹の病害 5	虫 第一巻(改 虫 第二巻(改	定第二版) 定第二版)					
②参考文献	フルーツ&フ	ルーツ(熊本県界	実連)						
		大 項 目			小 項 目				
	1 常緑果樹 	の栽培管理		(1)カンキツの種類・品種					
				(2)生育と栽培管理					
				(3)病害虫・生理障害					
				(4)出荷・販売と貯蔵・加工					
				(5)経営の特性と改善					
				(6)施設栽培·高品質果実栽培					
講義 スケジュール	 2 落葉果樹	の栽培管理		(1) 士亜只新	重の栽培特性				
	2 冶未不倒	少从 坦 6 江		(2)生育と制					
				(3)病害虫•					
					ー -∵ - 売と貯蔵・加工				
				(5)経営の特	寺性と改善				
				(6)施設栽培・高品質果実栽培					
※(2)~(6)は主要品種ごとに講義する									
成績評価	定期考査(75%)+小テストの成績およびレポート・プリント等の提出(10%)+出席状況や受講態度(15%)などにより総合的に評価する(100点満点)。 なお、レポートやプリントの未提出、講義への遅刻・早退・欠席、講義中の居眠り、私語および携帯電話(スマートフォン)使用は減点とする。特に、スマートフォンの使用については、注意に従わない場合欠席扱いとする。								

講義科目	科目名	栽培経営习	実習(果樹)	教 官 名	清水那	子			
一一一一一一	履修学年	2年	単位数	28単位	講義回数予定	通年			
授業形態	講義及び実習 講義及び実習			実務経験内容	普及指導員(果樹)				
科目目標 (指導·到達目標)		深めるととも			察や調査により基本的 中発生に対応した的研				
テーマ及び概要	ぶとともに、見	農大内外のほ場において、果樹の栽培管理やほ場管理の基礎知識や基本技術を ぶとともに、果樹栽培の経営能力を養う。 特に、プロジェクト研究における専攻樹種については重点的に管理技術の習得を行 う。							
使 用 教 材									
①テキスト・教材	校内果樹園(こおける栽培	管理						
②参考文献	農業機械や	各種資材等を	を利用した管	理実習					
		大 項 目			小 項 目				
	1 ほ場栽培	管理		(1)ハウス管理					
				(2)ほ場および周辺の草生管理					
				(3)ほ場の施設整備					
				(4)気象災害対策					
	- 50 141 45 14	ht TO		(4) (4 = + + + + + + + + + + + + + + + + + + 					
	2 果樹栽培	管埋		(1)結実管理					
				(2)枝梢管理 (3)土壌管理、施肥					
				(4)整枝・せん定					
 講義スケジュール				(4) 全校・せん足 (5) 収穫・販売					
H173207 1 7 7 1				(6)病害虫防除					
	 3 プロジェク	'ト研究指導		(1)プロジェクト研究の実施					
				(2)処理区の調査指導					
	【評価】出度》	大況(40%)	しポート坦	出わ履修能F	隻(60%)などにより糸	<u> </u>			
	する。								
成績評価					義への遅刻・早退・欠席、講義中の居眠り、私 ∵ついては減点とする。特にスマホの使用につ				
	いては、注意								

	科目名	 果樹ゼミ	ナールⅡ	教 官 名	清水那子				
講義科目		2年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む)	13回			
授業形態	講義及び演習	P.		実務経験内容	普及指導員(果樹)				
科目目標 (指導·到達目標)				よびデータの取り扱いについて理解を深め、プロ 必要な文献の検索と引用ができるようにする。					
テーマ及び概要	手法やデータ	試験研究機関の成果情報などを題材にして、論文の構成や文章の表現方法手法やデータの整理方法などについて学習し、プロジェクト学習で栽培した果性や調査データの取りまとめおよび考察を行う。							
使 用 教 材 ①テキスト・教材 ②参考文献	県農業研究や	センター果樹	研究所等研究	究成果情報、	熊本の果樹				
講義スケジュール	1 論文作成 3 調査資料			小 項 目 (1)論文の構成とまとめ方 (2)論文の書き方 (1)調査データの記録と整理方法 (2)記録したデータの処理方法 1)パソコンを用いたデータ処理 2)グラフなどの図形作成 3)写真整理					
成 績 評 価	(50%)、受調 【注意】レポー	構態度(30% −トやプリント。 〔(スマートファ	o)などにより の未提出、誰 tン)の使用!	総合的に評値 構義への遅刻 こついては洞	是出および発表やレポー 画する。 J・早退・欠席、講義中の ば点とする。特にスマホの	居眠り、私			

	科目名	 果樹経	 :営論	教 官 名	教 官 名 清水那子						
講義科目	园体 举左	o. 7	224 1 L 141	4 24 /1	 講義回数予定	100					
	履修学年	2年 ————	単位数	1単位	(うち1回は定期試験を含む)	12回					
授業形態	講義及び演習	2 1		実務経験内容	普及指導員(果樹)						
科目目標 (指導·到達目標)		本県の果樹経営における課題を理解させると共に、果樹経営における収益力の向上 及び安定性の強化に向けた手法を理解させる。									
テーマ及び概要	本県における果樹経営の特徴・課題と、果樹振興施策の狙いを理解する。 果樹経営の発展や安定強化のための経営戦略とマーケティングの考え方、流通環 境並びに消費者意識の動向を把握する。										
使 用 教 材											
①テキスト・教材											
②参考文献	農業技術大家		省発行パン フ	フレット、各種 T	Webサイト資料等						
	1 田井奴当	<u>大項目</u>		/ 1 \ 田 ## 4又点	小 項 目						
	1 果樹経営 	の特徴		(1)果樹経営の特徴							
				(2)県指標に見る品目別経営収支							
	ο «ΣΗ·ΛΤΟ	Λ # ™ ₩ ₩ ₩	: - +	(1)奴営八七の法ね							
	2 栓名分析 	の基礎的な考	スカ	(1)経営分析の流れ							
				(2)前提条件の把握							
				(土地条件、土地利用体系、栽培方法、							
				品種構成、機械化・施設装備、その他)							
				(3)月別作業労働時間							
講義スケジュール				(4)経営収支							
	 3 経営改善	のための様々	な手法	(1)省力、低コスト栽培技術							
				(2)高収量、高品質栽培技術							
				(3)加工および直販など							
				(ひ/ 加上のみの)巨淡な							
	【評価】定期を	 き香(75%). レ	ポート・プリ	ント等の提出		 					
	(15%)などに	より総合的に	評価する(10	00点満点)。							
成績評価	(15%)などにより総合的に評価する(100点満点)。 【注意】レポートやプリントの未提出、講義への遅刻・早退・欠席、講義中の居眠り、私語、携帯電話(スマートフォン)の使用については減点とする。特にスマホの使用については、注意に従わない場合、欠席扱いとする。										

		+\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	2.4.±3.48.1.±4.5							
講義科目	科 目 名 栽培経営実習(野塾 	乾)教官名	永井泰弘、椙山幹司							
HT7 720 11 14	履修学年 1年 単位領	22単位	講義回数予定通年	F						
授 業 形 態	実習形式・販売・コース別研修・栽場当番・加工・機械・農家派遣研修	苦 実務経験内容	普及指導員(野菜)							
科目目標 (指導·到達目標)		菜の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、野菜の特性や栽培に適した環境を 解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力を育てる。								
テーマ及び概要	うな技量を身につける。また、試験で なプロジェクト課題を設定し、実施す	習によって、野菜の栽培技術の基本について学習し、プロジェクト学習が実施できるよ 注技量を身につける。また、試験研究の進め方の重要性を習得し、秋作からは本格的 プロジェクト課題を設定し、実施する。コース別研修では、最新の栽培技術等について 也研修を行う。栽培当番は土日祝日の栽培管理を当番制で行う。加工・機械・農家派 研修は別途通知。								
使 用 教 材										
①テキスト・教材	熊本の野菜									
②参考文献	大項目		小百日							
	へ 頃 日 1 栽培管理技術の習得	 (1)メロン	小 項 目 (2)スイカ							
		(3)トマト								
			(5)スイートコーン(6)タマネギ							
		(7)オクラ								
		(77-300	(6)—2—7							
	 2 試験研究の進め方	(1)試験設調	计 (2)栽培計画							
	(プロジェクト学習)	(3)各種調	(3)各種調査 (4)調査データの処理							
		(5)結果取り	(5)結果取りまとめ (6)考察							
講義スケジュール	3 生産物販売	(1)各種野	(1)各種野菜の選果方法及び包装							
		(2)消費∙販	(2)消費・販売状況の把握							
	4 コース別研修	(1)熊本県原	(1)熊本県農業研究センター視察							
		(2)現地視察	ই							
	5 栽培当番	(1)かん水	当番							
		(2)ハウス	內環境調査記録							
			(3)トンネル開閉など							
成 績 評 価	知識・技術(30点)、履修態度(30点)、出席状況(40点)により総合的に評価する。(1 00点満点)ただし、出席率が90%未満の者は成績評価の対象にしない。 注意事項:レポートやプリントの未提出、講義への遅刻・早退・欠席、講義中の居眠り、 私語及び携帯電話(スマートフォン)の使用は減点とする。特に、スマホの使用について は、注意に従わない場合、欠席扱いとする。									

	科 目 名 野菜栽培各論 I				教 官 名 相山 幹司				
 講 義 科 目	17 11 11	= 1 未私口		叙	<u> </u>		·J		
	履修学年	1年	単位数	1	単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む)	13回		
授業形態	講義形式、七	!ルフワーク		実務	経験内容	普及指導員(野菜)			
科目目標 (指導·到達目標)		野菜の栽培に必要な知識を習得させ、野菜の特性や栽培に適した環境を ともに、品質と生産性の向上を図る能力を育てる。							
テーマ及び概要	理方法などに 各論 I では	各種野菜について、①来歴、②形態及び生理・生態的特性、③品種・作型、④栽培管理方法などについて学習する。 各論 I では、野菜の中でも熊本県の主要野菜(トマト・スイカ・メロン・イチゴ・ナス)の品目について理解を深める。							
使 用 教 材									
①テキスト・教材	野菜栽培の	基礎(農山漁村)	文化協会)						
②参考文献	熊本の野菜								
講義スケジュール	2 イチゴの 3 メロンの旨	大項目 1トマトの品目的特徴 2イチゴの品目的特徴 3メロンの品目的特徴 4スイカの品目的特徴				 (1) 来歴 (2) 形態及び生理・生態的特徴 (3) 品種・作型 (4) 栽培管理方法 (1) 来歴 (2) 形態及び生理・生態的特徴 (3) 品種・作型 			
	5 ナスの品	5 ナスの品目的特徴		 (4) 栽培管理方法 (1) 来歴 (2) 形態及び生理・生態的特徴 (3) 品種・作型 (4) 栽培管理方法 					
成 績 評 価	評価割合:講義出席状況(3分の2以上の出席のないものは成績評価の対象にしない)、講義への取り組み状況(10%)、ノート提出内容(10%)、定期試験(80%)注意事項:ノートの未提出、講義への遅刻・早退・欠席、講義中の居眠り、私語及び携帯電話(スマートフォン)の使用は減点とする。特に、スマホの使用については、注意に従わない場合、欠席扱いとする。								

-# * • • • • •	科目名	栽培経営	実習(野菜)	教 官 名	吉田達雄・宮	本陽造					
講義科目	履修学年	2年	単位数	28単位	講義回数予定	通年					
授 業 形 態	実習			実務経験内容	普及指導員(野菜)						
科目目標 (指導·到達目標)		野菜の基本的な栽培管理技術や選果方法、消費状況の把握をなどをプロジェク 習で行い、経営感覚を育てる。									
テーマ及び概要					本的な栽培管理技術· 経営感覚の習得を図						
使 用 教 材 ①テキスト・教材 ②参考文献	熊本の野菜	(本の野菜									
		大 項 目									
		 技術の習得		 (1)アールス	メロン						
				(2)スイカ							
				(3)トマト							
				(4)ミニトマト	•						
				(5)ナス							
				(6)イチゴ							
				(7)キュウリ							
				(8)ピーマン							
講義スケジュール				など							
	 2 試験研究	の進め方		(1)試験設計							
		ンクト学習)		(2)栽培計画							
				(3)各種調査							
				(4)調査データ処理							
				(5)結果とり	まとめ(図表作成)						
				(6)考察							
	3 生産物販	売		(1)各種野菜の選果方法及び包装							
(2)消費・販売状況の把握											
成 績 評 価	注意事項:講フォンなど)の	出席状況(40点)、履修態度(30点)、修得技術・レポート等(30点) 注意事項:講義への遅刻・早退・欠席、講義中の居眠り、私語及び携帯電話(スマートフォンなど)の使用は減点する。特に、スマートフォンの使用については、注意に従わない場合、欠席扱いとする。									

	科目名	野菜ゼミ	. Ι • Π	教 官 名	吉田 達雄 ・ 宮	'本陽造				
講義科目	履修学年	2年	単位数	各1単位	講義回数予定	I:13回 II:10回				
授業形態	講義および演	習		実務経験内容	普及指導員(野菜)					
科目目標 (指導·到達目標)	プロジェクト賞	プロジェクト学習における成果のとりまとめおよび発表の能力を高める。								
テーマ及び概要	研究課題を挑	望り下げて考察	察する。	ェクト成果にて 方法を習得す	ついて発表し、質疑応答 る。	を通じて、				
使 用 教 材 ①テキスト・教材 ②参考文献	熊本の野菜,	熊本の野菜,新版理系のためのレポート論文完全ナビ								
		大項目			小 項 目					
	I 栽培に取り について	組んだ野菜の	D特性	(1)作型と主要品目(県内での栽培状況)(2)性状と生育特性 (花芽分化・休眠・肥大特性)(3)栽培管理・病害虫防除・発生しやすい生理 障害と対策(4)栄養成分・機能性・用途						
		Ⅱ プロジェクト学習の			(1)課題および目的					
講義スケジュール	成果とりまとめ手法について			(2)各種調査のふりかえり 供試作物(品種)・試験区内容・施肥量・ 耕種概要・栽培の経過						
				(3)調査結果に基づく図表作成について 生育調査・収量調査・品質調査						
				(4)理系論文形式のポイント						
				(5)中間発表	Ę					
				(6)参考資料	lの探し方と活用法、考	察				
	出席状況、発	表や質疑応	<u></u> 答への参加	大況、中間報	告・発表の内容					
出席状況、発表や質疑応答への参加状況、中間報告・発表の内容 成績評価 注意事項:講義への遅刻・早退・欠席、講義中の居眠り、私語及び携帯電部 フォンなど)の使用は減点する。特に、スマートフォンの使用については、注 ない場合、欠席扱いとする。										

	1			1	T					
講義科目	科目名	野菜稻	E営論	教 官 名	吉田 達雄・宮本 陽造					
中 技 14 口	履修学年	2年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む) 10回					
授 業 形 態	講義及び演習	3		実務経験内容 普及指導員(野菜)						
科目目標 (指導·到達目標)	経営の内容を	経営の内容を把握する能力を育てる。								
テーマ及び概要		野菜に係る必要経費が把握でき、儲かる野菜経営を目指す視点を得る。 プロジェクトに係る経営について学び、まとめることができる。								
使 用 教 材										
 ①テキスト・教材	 能本県農業網	圣 学指標								
②参考文献	710,222141									
		大 項 目			 小 項 目					
講義スケジュール		る経営概況	概況	 (1)熊本県の主要品目の概況 (2)農業生産状況 (3)必要な経費の状況 (1)作付けの状況 (2)耕作面積 (3)作付体系 (4)月別労働時間(作物別) (5)作物別生産経費 (6)農業施設・農業機械の整備状況 (7)作物別農業所得 (8)農業経営の問題点把握 						
成績評価	注意事項:講	義への遅刻・)使用は減点 [.]	早退•欠席、	講義中の居	レポートの内容(40点) 眠り、私語及び携帯電話(スマート vの使用については、注意に従わな					

	科 目 名 畜産経	営実習(酪肉共通)	数 官 名 川上 純史 森 将臣						
講義科目	履修学年 1	年 単位数	22単位	講義回数予定	_ 通年				
授 業 形 態	講義形式·実習		実務経験内容 獣医師·家畜防疫員						
科目目標 (指導·到達目標)		家畜に関する実践的な学習を通じ、総合的な生産技術や知識を習得させる。このこと から、経営と飼養管理技術が深まり、管理能力や課題への適応能力を身につけること ができる。							
テーマ及び概要		肉用牛の飼養管理やプロジェクト学習をとおして、繁殖・育成技術、肥育技術を学び、 り実践的な経営技術を修得する。							
使 用 教 材 ①テキスト・教材 ②参考文献	各教科テキスト								
	大巧	頁 目		小 項 目					
	1 JGAP(家畜·畜	産物)の概要	(1)JGAPのホ	既要					
				けるJGAPの取り組					
	2 牛の飼養管理技	術		近と接触・捕獲・保?	_				
				飼養管理技術・日常					
				· 飼養管理技術·定期					
				飼養管理技術·不足 飼養管理技術·口幣					
			(5)肉用牛の飼養管理技術・日常作業 (6)肉用牛の飼養管理技術・定期作業						
			(7)肉用牛の飼養管理技術・不定期作業						
	3 牛の登録・審査		(1)乳用牛の見方・登録・審査						
			(2)肉用牛の	見方・登録・審査					
	4 牛の繁殖管理技	術	(1)牛の雌雄生殖器解剖						
			(2)発情発見・鑑定						
=# ¥			(3)直腸検査						
講義 スケジュール			(4)人工授精 (5)妊娠鑑定						
			(6)分娩管理						
	 5 粗飼料生産と貯	蔵技術	(1)飼料の植え付け						
			(2)圃場管理						
			(3)収穫とサイレージ調製						
	6 家畜糞尿処理技	術	(1)堆肥化処理技術						
	┃ ┃7 畜産経営管理技	绀	(2)活性汚泥法						
	/ 田庄社名官垤牧 	ניוין	(1)酪農経営管理技術 (2)肉用牛の経営管理技術						
	 8 プロジェクト学習		(2)肉用午の程名官理技術 (1)課題設定と研究目的						
			(2)計画作成						
			(3)調査研究						
			(4)データの						
			(5)データの:	分析と検討					
	知識・技術、履修態			する。					
 成績評価	ただし、出席率が90 注意:レポートやプリ			退•欠席、講義中の〕	居眠り、私語				
774 175 HI IM	及び携帯電話(スマ	ートフォン)の使用は	への遅刻・早退・欠席、講義中の居眠り、私語 は減点とする。特にスマホの使用については、注						
	意に従わない場合、	欠席扱いとする。							

 	科 目 名 家畜飼養管理・栄養	大学 教 官 名 川上 純史/古田 雅子			
#I. 52 11 E	履修学年 1年 単位	数 1単位 講義回数予定 11 回 (うち1回は定期試験を含む) 11 回			
授業形態	講義形式	実務経験内容 普及指導員(畜産)			
科目目標 (指導·到達目標)	対する適応性等の知識を修得させ、る。	学習を通じ、畜産物の生産技術や家畜の環境に , 飼養管理技術と課題への適応能力を身につけ 通じ、生産技術や栄養計算の知識を習得させ、 を育成させる。			
テーマ及び概要	家畜の適切な飼養管理技術及び乳	牛・肉用牛に必要な飼料給与の基本を習得させる			
使 用 教 材 ①テキスト・教材 ②参考文献	家畜の繁殖・人工授精講習会テキス 畜産関係文献	スト、日本飼料標準(乳牛・肉用牛)、配布資料			
	大 項 目	小 項 目			
	家畜飼養管理 1 牛に対する環境の影響	(1)環境温度による家畜の反応(2)牛の適温域			
	2 牛の管理施設の種類と特長 そ	(3)牛の体感温度 の1 (1)乳用牛 ①哺乳牛 ②育成牛 ③つなぎ飼い牛舎 ④フリーストール牛舎			
	3 牛の管理施設の種類と特長 そ	⑤フリーバーン ⑥乾乳牛 の2 (2)肉用牛 ①繁殖牛 ②育成牛・肥育牛			
講義スケジュール	4 牛の飼養管理	(1)乳牛 (2)肉用牛			
	栄養				
	1 家畜に必要な栄養	栄養と栄養素			
	2 栄養素と役割	(1)5第栄養素			
		①タンパク質 ②炭水化物 ③脂質 ④ビタミン ⑤無機物			
	3 家畜による栄養素の利用	(1)消化と吸収			
	4 飼料の栄養価	(2)代謝 (1)飼料とその一般成分			
		(2)可消化成分・エネルギー・蛋白質			
	5 飼養標準の活用	(1)乾物摂取量			
		(2)飼料計算			
成 績 評 価	注意:レポートやプリントの未提出、	状況および履修態度により評価する。 講義への遅刻・早退・欠席、講義中の居眠り、私 使用は減点とする。特にスマホの使用について いとする。			

謙	羔	科	В	科	目	名	畜産経営実習	習Ⅱ (酪農)	教 '	官名	古田 雅子			
研	我	17		履	修学	年	2年	単位数	28	単位	講義回数予定	通年		
授	業	形	態	実習	実習形式 実務経験内容 研究員・普及指導員(畜産)									
和 (指導		目標]達目		識•	乳牛の飼養管理や粗飼料生産、ふん尿処理等の実習を通じて、酪農全般に関する知識・技術を修得させる。また、各自課題解決のためのテーマを設定し、プロジェクト学習に取り組む。									
テー	マア	とびれ	既要		乳牛の哺育から分娩・搾乳等の各ステージにおける飼養管理や粗飼料生産、ふん尿処 理等酪農全般に関する知識・技術を学習する。									
使	用	教	材											
1)7	-+:	スト・	教材	各教	枚科テ	キス	K F							
②参	>考 :	文献	i •	畜產	主関係	文	献、各種Webサ	イト 資料等						
							大 項 目				小 項 目			
				1	乳用4	‡ の	飼養管理技術		(1)米	且飼料の	の分析と飼料給与計算			
							(2)邦	窄乳牛,	及び乾乳牛の栄養管理					
							(3)育成牛及び哺乳牛の栄養管理							
							(4)牛体の手入れ (毛刈り、削蹄、除角、耳標付け等)							
									(5)分	}娩管3	里			
				2	2 搾乳衛生				(1)1	Eしい拶	2乳技術と衛生管理			
									(2)乳房炎の予防と管理					
講義	スケ	゙ジュ	ール	3 1	3 繁殖管理技術				(1)発情鑑定と直腸検査					
				4	粗飼米	斗生	産と貯蔵技術		(1)トウモロコシの植え付け、サイレージ調製作業					
									(2)イタリアンの乾草調製作業					
				5 i	酪農絲	圣営	管理技術		(1)牛群検定情報利用について					
									(2)乳成分及び細菌数、体細胞数と乳価					
				6	家畜貧	 集尿	処理技術		(1)均	生肥舎(こおける堆肥の切り返し技	支術		
									(2)原	見し堆肌	巴の活用			
				7	7 プロジェクト学習				(1)試験設計、計画					
									(2)各種調査、データ処理、とりまとめ					
成	績	評	価	評価:知識・技術(30点)、履修態度(30点)、出席状況(40点)により総合的に評価する。 (100点満点)ただし、出席率が90%未満の者は成績評価の対象にしない。 注意:レポートやプリントの未提出、講義への遅刻・早退・欠席、講義中の居眠り、私語 及び携帯電話(スマートフォン)の使用は減点とする。特にスマホの使用については、 注意に従わない場合、欠席扱いとする。										

	1 0 2 ***		#	左 ii大 左□ 5	<u>+</u>	
 講 義 科 目	科 目 名 畜産経 	:営実習(肉用牛) 	教 官 名	角崎 智泽 ————————————————————————————————————	‡	
	履修学年 25	単位数	28単位	講義回数予定	通年	
授業形態	実習形式		実務経験内容	普及指導員(畜産)		
科目目標 (指導·到達目標)	肉用牛の飼養管理や飼料生産等の実習を通じ、家畜に関する基本的な知識や技術を修得させる。また、各自課題解決のためのテーマを設定し、プロジェクト学習に取り組む。					
テーマ及び概要	肉用牛の飼養管理 要性及び経営感覚の		を通して、繁殖	値・肥育牛管理、特に、タ	栄養管理の重	
使 用 教 材 ①テキスト・教材 ②参考文献	各講義で使用するテ	キストと教材				
	大 項			小 項 目		
講義 スケジュール	1 肉用牛の飼養と繁 2 粗飼料生産と貯蔵		イ 肥育: ウ 哺育 (2)飼料調 ア 繁殖 イ 肥育:	牛におけるエネルギー3 牛におけるエネルギー3 ,育成牛におけるエネル 製・給与 牛の飼養管理 牛の飼養管理 ・育成牛の飼養管理 入れ ,除角 理 この見方 定 査	 定 率	
	3 肉用牛経営管理技	支術	(2)圃場管理 (1)肉用牛流 (2)牛舎の行 (3)機械器具	 則尺∙測重		
	4 家畜糞尿処理技行	桁	堆肥化処理	技術		
	5 繁殖牛の見方		(1)繁殖牛((2)繁殖牛(
	6 プロジェクト学習					
成 績 評 価	評価:知識・技術(30点)、履修態度(30点)、出席状況(40点)により総合的に評価する (100点満点)。ただし、出席率が90%未満の者は成績評価の対象にしない。 注意:レポートやプリントの未提出、講義への遅刻・早退・欠席、講義中の居眠り、私語 及び携帯電話(スマートフォン)の使用は減点とする。特にスマホの使用について は、注意に従わない場合、欠席扱いとする。					

講義科目	科 目 名 畜産ゼミⅡ		教 官 名 古田 雅子 角崎 智洋					
m 我们一口	履修学年	2年	単位数	1単位	講義回数予定	13回		
授業形態	講義及び全体	本討議		実務経験内容 普及指導員(畜産)				
科目目標 (指導·到達目標)	プロジェクト学習を通じて、自ら課題を設定し問題解決のための取り組みと検討 うことにより、PDCAの手法を身につける。							
テーマ及び概要	り、より専門的	研究を通して、 的な経営技術な 学習と発表、3	を学ぶ。		関の設定と検討を 行	テうことによ		
使 用 教 材								
①テキスト・教材	各講義で使用	用するテキスト	と教材					
②参考文献	畜産関係文献	献						
		大項目			小 項 目			
	1 プロジェク	トの概要につ	いて	(1)課題設定	と研究目的			
				(2)計画作成と期限設定				
				(3)調査研究項目の検討				
				(4)データの収集と整理				
				(5)データの分析と検討				
	2 全体討議			(1)発表スライド及び発表原稿の作成				
				(2)成果発表	と討議			
 講義スケジュール								
成績評価	注意:レポー 語及び携帯	評価:出席状況及び態度、提出物により総合的に評価する。 注意:レポートやプリントの未提出、講義への遅刻・早退・欠席、講義中の居眠り、私 語及び携帯電話(スマートフォン)の使用は減点とする。特にスマホの使用について は、注意に従わない場合、欠席扱いとする。						

	1				1			
講義科目	科 目 名 家畜衛生論		教 官 名 森 将臣					
HI. 32 11 E	履修学年	2年	単位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む)	12回		
授 業 形態	講義形式・プロ	コジェクター(パソコ	コン)・DVD	実務経験内容	獣医師・家畜防疫員			
科目目標 (指導·到達目標)	家畜の飼養管 を習得させる		上対策の 重	要性を理解	させ、生産性向上のため	の基礎知識		
テーマ及び概要		家畜の健康のため、疾病発生メカニズムの概要と予防について理解するとともに、食品 の安全性確保のため、生産段階における飼養衛生管理の重要性について学習する。						
使 用 教 材								
①テキスト・教材	家畜衛生の教	枚科書、飼養衛生	上管理基準	に関する資	料			
②参考文献	家畜衛生に関	関する文献や資料	料					
		大 項 目			小 項 目			
	1 疾病の種類	頁、家畜衛生の歴5	史について	(1)疾病の				
				(2)家畜衛	生の歴史			
	2 国内家畜防	5疫、国際家畜防 <u>组</u>	变について	(1)家畜伝染病予防法				
				(2)国際防疫				
	3 飼養衛生	管理基準につい	て	(1)飼養衛生管理基準				
	4 HACCP、GAPについて			(1)農場HA	CCP			
	·			(2)畜産GAP				
	5 消毒につ	いて		(1)消毒の	目的			
			(2)消毒の種類					
 講義スケジュール	6 ワクチンについて (1)ワクチンの効果 (2)家畜用ワクチンとワクチネーションプロ							
H17920 07 0 = 70								
	7 搾乳、放牧衛生について			(1)搾乳の	仕組みと搾乳衛生			
				(2)放牧の管理、衛生、疾病				
	8 口蹄疫について			(1)口蹄疫とは				
				(2)口蹄疫に対する防疫				
	 9 牛伝染性リンパ腫について			(1)牛伝染性リンパ腫とは				
				(2)牛伝染性リンパ腫に対する防疫				
	 10 高病原性	生鳥インフルエン	゚゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙					
		豚熱(こついて	(2) 豚熱に対する防疫				
		査(80%)、講義	えい 出席状況	況や講義態	度(20%)などにより総合	合的に評価		
成 績 評 価	する。 注意事項:レポートやプリントの未提出、講義への遅刻・早退・欠席、講義中の居眠り、私							
	語及び携帯電話(スマートフォン)の使用は減点とする。							

	ı		1					
講義科目	科目名	飼料作物学	教 官 名	古田 雅子				
一种一致 14 口 	履修学年 2	2年 単位数	1単位	講義回数予定 (うち1回は定期試験を含む) 12回				
授業形態	講義形式		実務経験内容	研究員•普及指導員(畜産)				
科目目標 (指導·到達目標)		飼料作物の草種毎の特性、栽培方法に必要な基礎知識を理解させ、地域に適合した 合理的な栽培技術を修得させる。						
テーマ及び概要	飼料作物の種類 る。	や特性、栽培・利用	方法等の基準	本と自給飼料生産の意義を学習す	†			
使 用 教 材								
①テキスト・教材	配布資料							
②参考文献	畜産関係文献、各	種Webサイト資料等	[
	大:	項 目		小 項 目				
	1 飼料作物と畜	産	世界及び日	本おける飼料作物の現状				
	2 飼料作物の種	種類 その1	(1)飼料作物	勿の分類				
	3 飼料作物の種	麺類 その2	(1)青刈作物					
			(2)栽培方法					
	4 飼料作物の種	類 その3	イネ科牧草の	の種類と特性				
	5 飼料作物の種	種類 その4		草の種類と特性 料作物の共生窒素固定				
	6 飼料作物の種	種類 その5	飼料作物の	栄養生理				
 講義スケジュール	 7 飼料作物のF	用 その1	サイレージ					
117920 070 - 70			ア サイレ	v-ジの飼料的特性				
			イ サイレージの調製法					
			ウ サイ	ノージの品質評価				
	 8 飼料作物の利	用 その2	乾草					
		-		の飼料的特性				
			イ 乾草の	の調製法				
			ウ 乾草	の品質評価				
	 9 飼料作物の ^未	用 その3	放牧					
		••••	ア 放牧	の種類				
			イ 放牧(の特徴				
			ウ 放牧	の実際				
成績評価	注意:レポートやフ 及び携帯電話(ス・	構義の出席状況およ リントの未提出、講マートフォン)の使用 合、欠席扱いとする	義への遅刻・ は減点とする	こより評価する。 早退・欠席、講義中の居眠り、私 っ。特にスマホの使用については、	語			

	科目名	食品加工	工実習	教 官 名	松本 鮎美	岩木 秀生	
講 義 科 目 	履修学年	1学年	単位数	_	講義回数予定	各コースごと8回	
授 業 形 態	実習、現地事例]研修		実務経験内容 普及指導員(農産物利活用)			
科目目標 (指導·到達目標)	加工実習を通して農産物の特徴や活かし方を理解させ、食関連ビジネスへの関心と興味 を高める。						
テーマ及び概要	農大生産物を活用した加工実習を通して、生産物の特性や品質に対する関心を高める。 生産物が加工技術により、形や物性を変える面白さを体験させる。						
使 用 教 材 ①テキスト・教材 ②参考文献	担当教官作成于	テキスト					
	大 項	目(素材)			小 項 目		
	1 野菜類の加工	_		(1)トマトのジ	ュース・ピューレ・ソ	ース・ケチャップ	
				(2)いちごジャ	<i>,</i> ل		
				(3)焼肉のたれ・ドレッシング			
	2 果実類の加工			(1)梨ゼリー・柑橘ピール			
				(2)柑橘のドリンクゼリー			
		次加工(加糖冷凍季	∜、梅ピューレ)				
講義 スケジュール							
	3 穀類の加工			(1)小麦粉の	発酵と焼成(ピザ・ノ	パン等)	
	(2)焼き菓子(スコーン・シフォンケーキ等)						
	4 乳·畜肉加工			(1)アイスクリ	ーム		
				(2)生キャラメ	シレ		
				(3)ベーコン(畜産学科のみ)		
	5 現地事例研修	\$		県内農業法人	、観光農園等の取	り組み視察	
成 績 評 価	・当該実習は、経営実習の時間で行う。 ・当該実習分の評価は、出席状況(40%)+知識技術(30%)+履修態度等(30%)により、総合的に評価する(100点満点)。 ・当該実習の出席率が80%未満のものは、出席状況の配点を0点とする。 ・注意:レポートの未提出、講義への遅刻・早退・欠席、実習中の怠慢、私語等は減点とする。特に、スマートフォン、イヤホンの使用については、注意に従わない場合、欠席扱いとする。 ・科目担当教官は、当該実習分の評価を担任に渡し、担任は、経営実習や農家派遣研修と合算し、「経営実習」として最終的に評価する。						

講義科目	科目名	食品加	工実習	教 官 名	松本 鮎美	岩木 秀生
마카 3호 17 니	履修学年	2学年	単位数	-	講義回数予定	10回
授業形態	実習、講義			実務経験内容	普及指導員(農産	全物利活用)
科目目標 (指導·到達目標)	農業の6次産業 食品の商品開発				自ら生産した農産物	物を活用した加工
テーマ及び概要	(1)農大農産物で (2)プロジェクト記 (3)企業等との返	果題(卒論)と	リンクした業	折商品開発や力	加工特性調査	
使 用 教 材						
①テキスト・教材	担当教官作成	テキスト				
②参考文献						
講義 スケジュール	大 功 1 農大農産物を 実習・販売	到 目(素材)	企画と製造	ア 野 マト・レ イ 穀 小 果 サ サ 果 乗 乳 ・ 果 乳 、 果 れ 乳 、 果 れ 乳 、 果 れ 乳 、 れ 乳 、 れ 、 れ 、 れ 、 れ 、 れ 、 れ 、 れ 、	^ちご等 ニ 粉	
	2 プロジェクト課 新商品開発や加		ノンクした		ンプロジェクト課題で 象とした個別指導	を設定している
	3 県内企業等との連携による6次産業 (1)企業等の講義・交流 化実践学習 食品企業技術者等による実技指導					
成績評価					ま、実習中の怠慢、 注意に従わない場	

	科目名	農業機械応 (I・I		教 官 名	田中 (法 後藤 注 重松	洋一郎 沢田 明雄		
講義科目	履修学年	2学年 (希望制)	単位数	単位なし (経営実習扱い I のけん引免 取得者は 加算単位1	e許 (2項目)	実習 I :3回 実習 II :2回		
授 業 形 態	実習形式(2項目)							
科目目標 (指導·到達目標)						免許が取得できる。 工具等の取扱いが		
テーマ及び概要	全な運転操作技法に、農業機	支術を習得さ ⁻ 械整備の応用 構成部品の働	せ、けん引(<u>)</u> 引として、多く jきを理解す	農耕車限定) の農業機械の るとともに、各	免許を取得させ の動力源である ト種工具類・点点	で路上走行をする際の安さる。 さる。 エンジン(ガソリン・ディー 食測定用器具の使用方法 践力を高める。		
使 用 教 材 ①テキスト・教材 ②参考文献		工具、燃料(ナ	ブソリン・軽泪	h·灯油·BDF		ゼル)・交換部品、 ・オイル等、ウエス、		
	:	 大 項 目			小項	[目		
	1 農業機械応			(1)けん引車の基本操作、乗降車・始動手順等				
	(農作業安全講座:けん引)				5向転換(車庫入れ)			
	3回開催(各5日、※水曜日終日)				通法に基づいた			
	(1)6月17日(月 (2)9月2日(月)				三(農耕用)走行			
	(3)11月18日(:)	(5)安全かつ円滑な走行(模擬試験)				
				(6)適性試験(視力・深視力等)				
)(けん引免許村			
講義 スケジュール	2 農業機械応			(1)エンジン	(ガソリン) のし	くみ		
	┃ (エンジン分 ただし、選択			(2)工具・測定器具の種類と取扱い方法				
		ハンエンジン		(3)エンジンの分解・各部品の洗浄				
				(4)排気量、吸排気弁頭すき間等の計測				
	2回開催(各2 (G.ガソリン2匝		1終日)	(5)エンジンの組立・調整				
	(1:G1)5月14	日(火)、15日((6)燃料(ガソリン・軽油・灯油・BDF)の取扱い				
	(2:G2)7月9日(火)、10日(金)		(7)エンジンオイルの特徴、機能について					
				(8)エンジン	始動∙停止確認			
				(9)ガバナ及	マびスロー調整			
成績評価	実技試験 実 携帯電話(ス ⁻				【験(免許センタ	一による出張試験)		